

會見要録第五回

MT

2-0 0 6 7

0090

會見要録第五回

四月十日午後四時十五分
藤野樓上にて行ふ

當日彼我出席者官氏名大如し

全權辦理大臣伯爵伊藤博文

欽差頭等

全權大臣伯爵李鴻章

一等肅毅

内閣書記官長

伊東巳代治

欽差全權大臣

李經畚

外務書記官

井上勝之助

参贊官

伍廷芳

外務省秘書官

中田敬義

参贊官

馬建忠

外務省翻譯官

陸奥廣吉

参贊官

羅豐祿

外務省参事

植原陳政

(例ノ如ク互ニ握手禮終リ座定マリタル後)

伊藤伯爵

李伯爵閣下ニハ意外ニ速ニ平癒セラレ

今日此席ニ臨マレタルハ余ノ尤モ欣幸トス

ル所ナリ

李伯

余カ意外ニ速ニ回復シタルハ一ニ貴

國 兩陛下ヨリ特別ノ御恩召ヲ以テ名譽ヲ

差遣サレタルノ聖恩ニ由ル余ハ今恭ク之ヲ

拝謝スルト同時ニ兩陛下カ余ノ為ニ非常ナ

ル配慮セラレタルコトヲ敬謝ス

伊藤伯爵

閣下カ此ノ如ク速ニ快癒セラレタル

ニ付キ主治醫モ亦大功ヲ奏シタルモノト云

フヘシ

MT

MT

李伯 實ニ然リ……佐藤總監ヨリ聞ク所

ニ依レハ陸奥外務大臣ハ病等ニ卧シ其熱度
甚タ高シト云ヘリ今尚輕快セラレサルカ

伊藤伯 陸奥子ノ病疰ハ「インフ^ルエンザ」ニテ昨

日ハ熱度非常ニ昂騰シ今日猶未タ輕快ニ赴
カス余等尤モ痛心シ居レリ

李伯 定メテ解熱劑ヲ用ヒラレタランカ未

タ^タ藥効ヲ奏セサルカ

伊藤伯 昨夜ヨリ稍々輕快ノ方ニ向ヘリ

李伯 食欲ハ減セサルカ

伊藤伯 著ク減セリ

李伯 熱度高キトキハ食欲乏シキモノナリ

伊藤伯 余モ^四週間前ニ「インフ^ルエンザ」症ニ罹

リタルモ平素壯健ナレハ幸ニシテ直ニ回復
セタリ

李伯 閣下ノ身軀鉄ノ如シ其回復ノ速カナ

ル何ソ怪マン

伊藤伯 余ノ双親ハ今猶健在殊ニ家嚴ハ八旬

ヲ過キテ饒鏖タリ

李伯 實ニ欣羨ニ堪ヘス……今ハ何地ニ

MT

MT

居住セラル、カ

伊藤伯 東京ニ居住ス、、、、當縣ハ余ノ故郷

ナリ

李伯 閣下カ長門ノ人ナルハ余夙ニ聞知ス

其故郷ハ此地ヨリ尚ホ遠遠ナルカ

伊藤伯 否、二十哩ニ過キス

李伯 余ハ常ニ貴國知名人士ノ出生地ヲ究
ムルニ薩摩若クハ長門ノ人極メテ多キヲ知

レリ

伊藤伯 我薩長二國ハ貴國ノ湖南安徽ノ如シ

李伯 然リ湖南ハ薩摩ニ安徽ハ長門ニ等シ

、、、、(微笑)今ヤ安徽ハ長門ニ打負ケタリ

伊藤伯 長門カ安徽ニ勝タタリト云フハ當ラ

ス(微笑)實ニ日本カ支那ニ打勝チタルナリ

李伯 假ニ閣下ト余ト地位ヲ換^易ヘ余シシテ

貴國ノ總理大臣タラシムルモ余ハ閣下ノ成

就セラレタル事業ヲ半ヲモ成就スルヲ得サ

ラン

伊藤伯 否、尚善ク大業ヲ成遂セラレタランモ
知ルヘカラス

MT

MT

李伯 是^此閣下カ貴國ノ為ニ盡サレタル

所ノモノニレテ一モ余ノ意見ト符合セサル
ハナレ即チ余ハ閣下ト同一ノ方途ニ向テ進
行セント欲スルモ如何セン余ハ其志望ヲ貫
徹スルヲ渴ス遺憾道フヘカラス假ニ閣下シ
レテ余ノ地位ニ在ラシムルモ今我國ノ状況
ニ於テ恐クハ其至難ヲ感セラレン

伊藤伯 喬木風多シ其位隆ク權盛ナレハ公
ノ嫉妬ハ免レ難シ豈洋ノ東西ヲ論センヤ我
國ノ如キ亦絶テ其事ナレト云フヘカラス

李伯 然レトモ貴國ニ在テハ上ニ聰明ノ

英主在マシ賢能朝廷ニ鍾マリ下ニ忠勇ノ人
民アリテ國家一旦事アレハ上下一致スルノ
統一カノ鞏固ナルニ至テハ實ニ羨望ニ堪ハ
サル所ナリ……貴國ノ如キ聰明睿智ノ君
在リテ賢相ノ輔弼ヲ待テ能ク其献替スル所
ヲ聽納シ玉フニ於テハ所謂野ニ遺賢ナキノ
觀テ呈シ國中ノ材能ハ朝廷ニ僞羅セラレ各
其志ヲ成シ其所ニ安スヘキヲ以テ一國
ノ進歩期シテ待ツヘキノミ余ハ貴國長足ノ

MT

MT

進歩ヲ見潤シテ轉々欽羨ニ堪ヘサルモノアリ

伊藤伯 今上陛下ハ大政維新ノ時猶御幼冲ニ在マシタルモ天資聰明ニ渡ラセ玉ヒタルハ賢者ヲ重用シテ其献替スル所ヲ聽容シ萬機親裁務メテ旧習ヲ蟬脱シ日新開明ノ美治ヲ施シ玉ヘリ

李伯 左レハコソ一國賢能雲ノ如ク朝廷ニ集マリ各々其志ヲ成シ専ラ力ヲ致シテ國家ニ盡サレタル所以カ

伊藤伯 他事ハ措キ唯今ヨリ重要ナル商議ニ移ラントス、余ハ昨日閣下ヨリ送致セラレタル答議ニ就キ十分考慮シタリ閣下ノ知ラル、如ク倏忽ノ間金島翔々玉兎走り已ニ休戦期間ノ半ヲ過キタリ仍テ我々ハ一日モ速ニ商定結了スル所ナカルヘカウサルハ閣下ニ於テモ亦須ク胸臆ニ記セラレサルヘカラス是ヲ以テ余ハ故ウニ難問題ヲ提出シテ折衝往復ノ為ニ時間ヲ徒費スルヲ欲セス却テ明々白地我ノ底意ヲ示シ以テ閣下ノ決

MT

MT

答ヲ聞カンコトヲ望ム余ハ此意ヲ以テ茲ニ
一ノ覺書ヲ作り閣下ノ熟覽ヲ乞ハントス是
レ去ル五日閣下ヨリ送付セラレタル第一ノ
答議及昨日送付セラレタル第二ノ答議ヲ深
思熟覽シテ貴意ノ存スル所ヲ察知シ而ル後
起草シタルモノナリ閣下若シ静カニ之ヲ精
讀セララル、ナラハ余等カ十分貴國ノ困難ナ
ル地位ト近今ノ事情ヲ諒察シタルヲ了知セ
ラレン尙ホ詳言セハ十分貴國ノ困難ヲ諒察
シタルハコソ此覺書ニ於テハ當初我要求ス

MT

ル所ノモノヲ為シ得ル限リノ程度ニ於テ輕
減シタリ蓋シ此輕減ハ直今ニ貴國ノ困難ヲ
少クスル丈ニ我ノ困難ヲ多クスルモノナ
リ然レトモ余ハ之ニ就キ重責ヲ負フヲ避ケ
サルノ決心ナリ而レテ閣下カ此覺書ニ對セ
ラル、決答ハ唯タ諾若クハ否ノ一字アルノ

李伯 貴意了知セリ然ラハ此覺書ニ付テハ
更ニ論議スルヲ許サレサル意カ
伊藤伯 素ヨリ論議ヲ許サルニ非ラス然レ

MT

トモ論議スルノ餘地ナキヲ如何セン余ノ意
其進行ヲ快速ニスルヲ專ナレハ此便法ヲ取り
タリ

李伯 貴意詳ニスルヲ得タリ閣下已ニ我ノ
困難ヲ十分諒察シテ要求ノ條件ヲ輕減セラ
レタリト云ハル、ニ於テハ余ハ堅ク信ス必
ス我ノ應諾スルヲ得ヘキ程度ニ^迄寛大措
置セラレタルヲ

伊藤伯 我ニ在テハ苟モ為レ得ヘキ限^ハ十
分諒恕レタリ其以上ノ觀察ハ唯タ貴意ノ如

何ニ任スノ外ナシ

李伯 既ニ屢々陳シタル如ク我政府ハ勿
論本大臣ニ於テモ遠ク此ニ使来レ只管和ヲ
乞フニ切實ナルハ夙ニ閣下ノ識認セラル、
所ナラン故ニ余ハ應諾スルヲ得ヘキ限^ハ
閣下ノ指命ニ從フヘキ決意ナリ

伊藤伯 既ニ貴聽ヲ煩シタル如ク休戰期其^限半
ヲ過キタルノ今日ナレハ余ハ一點胸底ニ秘
スル所ナク誠ヲ開テ明々白地ニ商議スル所
アラントス若シ種々作略ニ涉ル如キアラハ

MT

MT

却テ之カ為メニ日子ヲ空費シ談未タ熟セサルニ早ク已ニ休戦期満ツノ悔アラシ

李伯 貴説洵ニ然リ此覺書ハ今披讀スルヲ得ルカ又無論漢譯モ付セラレタルナラン

伊藤伯 否、本書ハ日本文ニシテ譯本ハ英文ナリ全部ノ漢譯ハナシト雖モ其重要ナル三箇條ノミハ漢譯セシメ置キタリ初メ全部漢譯セシメントシタルモ實ニ其猶豫ナカリシ

李伯 此覺書ハ餘程長文ナルカ

伊藤伯 否、格別長文ニヤラス

(此時伊藤伯ハ覺書ヲ執テ李伯ニ付ス李伯之ヲ默読熟思スルコト凡ソ五分時、李伯亦日英西文ヲ較照シ李伯ハ覺書中重大ナル三箇條ヲ漢譯シタルモノヲ手ニシ李伯方ト密略ス而ル後彼ハ齋ス所ノ地圖ヲ繰閱セントレ革囊ヲ物色スル時伊藤伯ハ特ニ調製セシメタル本覺書ニ關係部分ノ地圖ヲ李伯ニ貸與セラレ李伯ハ此日旅館ニ携歸シ追テ返戻スヘシトノ約ヲ以テ借覽スルノ承諾ヲ伊藤伯ニ得タリ覺書ノ全文

MT

MT

左ノ如シ

一 諸言ニ對シテハ大日本帝國全權辦理大臣ハ如何ナル條正ヲ加フルコトモ承諾スルコト能ハス

一 第一條ニ付テハ大日本帝國全權辦理大臣ハ先キニ大清帝國欽差頭等全權大臣ハ提出セシ所ノ語句ヲ變改スルコトヲ得ス

一 第二條ニ付テハ大日本帝國全權辦理大臣ハ大清帝國欽差頭等全權大臣ヨリ提

議セラレシ條正案ヲ肯納スルコト能ハ

スト雖モ原案ヲ尤ノ通り更改スルコトヲ承諾スヘシ

清國ハ左記ノ土地ノ主權並ニ該地方

ニ在ル城壘兵器製造所及官有物ヲ永

遠日本國ニ割與ス

一 左ノ經界内ニ在ル盛京省南部地

鴨綠江口ヨリ該江ヲ溯リ安平河口

ニ至リ該河口ヨリ鳳凰城海城及營

MT

MT

2-0 0 6 7

口ニ亘ル折線以南ノ地併セテ前記
ノ各城市ヲ包含ス

遼東湾東岸及黄海北岸ニ在テ盛京
省ニ属スル諸島嶼

二臺灣全島及其附属諸島嶼

三澎湖列島即英國「パリーンウイ」東
経百十九度乃至百二十度及北緯二
十三度乃至二十四度ノ間ニ在ル諸

島嶼

一第四條ニ付テハ大日本帝國全權辦理大

臣ハ大清帝國欽差頭等全權大臣ノ提議
ヲ肯納スルコト能ハスト雖モ原案ヲ左
ノ通り修正スルコトシ承諾スヘシ

清國ハ軍費賠償金トシテ庫平銀二億
兩ヲ日本國ヘ支拂フヘキコトヲ約ス
右金額ハ都合八回ニ分テ初回及次回
ニハ毎回五千萬兩ヲ支拂フヘシ而シ
テ初回ノ拂込ハ本約批准交換後六箇
月以内ニ次回ノ拂込ハ本約批准交換
後十二箇月以内ニ於テスヘシ残リノ

MT

MT

金額ハ六箇年賦ニ分テ其第一次ハ本
 約批准交換後二箇年以内ニ其第二次
 ハ本約批准交換後三箇年以内ニ其第
 三次ハ本約批准交換後四箇年以内ニ
 其第四次ハ本約批准交換後五箇年以
 内ニ其第五次ハ本約批准交換後六箇
 年以内ニ其第六次ハ本約批准交換後
 七箇年以内ニ支拂フヘシ又初回拂込ノ
 期日ヨリ以後未タ拂込タラサル額
 ニ對シテハ毎年百分ノ五ノ利子シ支
 拂フヘキモノトス
 但シ清國ハ何時タリトモ該賠償金ノ
 全額或ハ其幾部分ヲ前以テ一時ニ支
 拂フコトヲ得ヘシ

一第五條ニ付テハ大日本帝國全權辦理大
 臣ハ大清帝國欽差頭等全權大臣ノ修正
 案ヲ肯納スルコト能ハス

一第六條ニ付テハ大日本帝國全權辦理大
 臣ハ大清帝國欽差頭等全權大臣ノ提議
 シ肯納スルコト能ハスト雖モ原案シ左

MT

MT

ノ通り修正スルコトヲ承諾スヘシ

日清兩國間ノ一切ノ條約ハ交戦ノ為
メ消滅シタレハ清國ハ本約批准交換
ノ後速カニ全權委員ヲ任命シ日本國
全權委員ト通商航海條約及陸路交通
貿易ニ関スル約定ヲ締結スヘキコト
ヲ約ス而シテ現ニ清國ト歐洲各國ト
ノ間ニ存在スル諸條約章程ヲ以テ該
日清兩國間諸條約ノ基礎トナスヘシ
又本約批准交換ノ日ヨリ該諸條約ノ

MT

實施ニ至ル迄ハ清國ハ日本國官吏
商業航海陸路交通貿易工業船舶及民
民ニ對シ總テ最惠國待遇ヲ與フヘシ
清國ハ右ノ外左ノ讓歩ヲ為シ而シテ
該讓與ハ本約調印ノ日ヨリ六個月ノ
後有効ノモノトス

第一清國ニ於テ現ニ各外國ニ向テ
開キ居ル所ノ各市港ノ外ニ日本
國民民ノ商業住居工業及製造業
ノ為ニ左ノ市港ヲ開クヘシ但シ

MT

現ニ清國ノ開市場開港場ニ行ハ
ル、所ト同一ノ條件ニ於テ同一
ノ特典及便益ヲ享有スヘキモノ
トス

一湖北省荊州府沙市

二四川省重慶府

三江蘇省蘇州府

四浙江省杭州府

日本國政府ハ以上列記スル所ノ
市港中何レノ處ニモ領事官ヲ

置クノ權利アルモノトス

第二旅客及貨物運送ノ為メ日本國
汽船ノ航路ヲ左記ノ場所ニ迄擴
張スヘシ

一楊子江上流湖北省宜昌ヨリ四

川省重慶ニ至ル

二上海ヨリ吳淞江及運河ニ入リ

蘇州杭州ニ至ル

其時清西國ニ於テ新章程ヲ妥定ス
ル迄ハ前記航路ニ関シ適用シ得

MT

MT

へキ限りハ外國船舶清國內地水路航行ニ関スル現行章程ヲ施行スヘシ

第三日本國臣民ハ清國內地ニ於テ貨品及生産物ヲ購買シ又ハ其輸入シタル商品ヲ清國內地ニ運送スルニハ右購買品又ハ運送品ヲ倉入スル爲メ何等ノ税金取立金ヲモ納ムルコトナク又清國官吏ノ干渉ヲ受クルコトナク一時倉

庫ヲ借入ル、ノ權利ヲ有スヘシ

第四日本國臣民ハ清國ニ於テ納ムル諸税及手数料ハ庫平銀ヲ以テスヘシ而シテ右諸税及手数料ハ日本國奉還銀貨ヲ以テ其代表價格ニ因リテ納金スルコトヲ得ヘシ

第五日本國臣民ハ清國ニ於テ自由ニ各種ノ製造業ニ従事スルコトヲ得ヘク又所定ノ輸入税ヲ拂フ

MT

MT

ノミニテ自由ニ各種ノ器械類ヲ
清國ニ輸入スルコトヲ得ヘシ
清國ニ於ケル日本國臣民ノ製造
ニ係ル一切ノ貨品ハ各種ノ内國
運送税内地税賦課金取立金ニ関
シ又清國內地ニ於ケル倉入上ノ
便益ニ関シ日本國臣民ハ清國ハ
輸入レタル商品ト同一ノ取扱ヲ
受ケ且同一ノ特典免除ヲ享有ス
ヘキモノトス

MT

此等ノ讓與ニ関シ更ニ章程ヲ規定ス
ルコトヲ要スル場合ニハ之ヲ本條ニ
規定スル所ノ通商航海條約中ニ具載
スヘキモノトス

一第七條ニ付テハ大日本帝國全權辦理大
臣ハ修正案ヲ肯納スルコト能ハス
一第八條ニ付テハ大日本帝國全權辦理大
臣ハ修正案ヲ肯納スルコト能ハスト雖
モ原案ヲ尤ノ通り修正スルコトヲ承諾
スヘシ

MT

清國ハ本約ノ規定ヲ誠實ニ施行スヘキ擔保トシテ日本國軍隊ノ一時山東省威海衛ヲ占領スルコトヲ承諾ス而シテ本約ニ規定シタル軍費賠償金ノ初回次回ノ拂込ヲ了リ通商航海條約ノ批准交換ヲ了リタルトキニ當リテ清國政府ニテ右賠償金ノ殘額ノ元利ニ對シ充分適當ナル取極ヲ立テ清國海關稅ヲ以テ抵當トナスコトヲ承諾スルニ於テハ日本國ハ其ノ軍隊ヲ前記ノ場所ヨリ撤回スヘシ若又之ニ關シ充分適當ナル取極立タサル場合ニハ該賠償金ノ最終回ノ拂込ヲ了リタルトキニ於テハ撤回セサルヘシ尤モ通商航海條約ノ批准交換ヲ了リタル後ニ於テハ軍隊ノ撤回ヲ行ハサルモノト承知スヘシ

右一時占領ニ關スル諸費用ハ清國ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

一第十條ニ付テハ大日本帝國全權辦理大

MT

MT

臣ハ原案ヲ変改スルコトヲ得ス
 一大清帝國欽差頭等全權大臣ヨリ提議セ
 ラレシ第十一條ノ新案ハ大日本帝國全
 權辦理大臣ニ於テハ之ヲ肯納スルコト
 能ハス

李伯 此覺書中ノ重要ナル箇條ハ幸ヒ清譯

ノ成レルアレハ之ヲ基礎トシテ少ク卑見ヲ

陳述スルコトヲ許サル、カ(伊藤伯首肯)先ツ

第一ハ賠償金ノ二億兩ハ實ニ莫大ナル額ニ

シテ今日ノ我國ニ於テ負擔シ得ヘキニ^非ラ
 ス、^ハ更ニ輕減ヲ請ハサルヘカラス

伊藤伯 既ニ明言セル如ク其及フ丈^ハ輕減

シ而ル後ニ於テ此覺書ヲ製シタレハ此上輕

減スヘキ餘地存セス若シ今後戦争ヲ續クル

ニ於テハ賠償金額唯タ此ニ止マラサルヲ諒

セヨ

李伯 其レ或ハ然ラン、然レトモ二億兩ノ巨

額^非進モ現今ノ我國ニ於テ負擔シ得ヘキニ

ラス閣下願クハ察ヲ垂レテ更ニ再考セラレ

MT

MT

ンコトヲ

伊藤伯 十分諒察シタルモ戦争ノ結果ナレハ
如何トモスヘキナシ

李伯 已ニ第一ノ答議ニ於テ縷述シタル如
ク貴國ヨリ此ノ如キ苛重ナル條件ヲ指命シ
二億兩ノ賠償ハ毫モ寛宥セスト主張セラル
ルニ於テハ我國ハ無論獨力ヲ以テ其負擔ニ
堪ヘサレハ之ヲ外國ノ資本家ニ詢リ以テ國
債ヲ募ラサルヲ得ス然ルニ我國ニ於テハ其
負債ヲ償還スルニ足ルノ財源ヲ有セサル事

實ヲ先ツ十分諒察セラレンコトヲ乞フ

伊藤伯 其レ等ノ點ハ計算ノ方法如何ニモ由
ルコトニレテ余ハ今貴國ニ代リ牙籌ヲ取ル
ヲ得スト雖モ一例ヲ以テセハ借入金ノ期限
ヲ二十年トスヘキシ一倍シテ四十年トセハ
其償還ニ於ケル困難ヲ輕減スルヲ得ルノ理
ニ^非ラスヤ

李伯 其ノ如ク期限ヲ長クセハ誰カ債主タ
ルヲ肯ジヤ……<sup>將多量の借款を
期限を長くせしむるは……</sup>

伊藤伯 否、閣下ノ言謬レリ歐洲ノ市場ニ在テ

MT

MT

ハ期限長ケレハ長キ丈テ却テ投資ノ道ヲ得
タルヲ喜フ苟モ其目的ニシテ正確ナラハ彼
等ハ元来利子ヲ收ムルヲ以テ満足スルモノ
ナレハ終始運用ノ交換ナキヲコソ望ムナレ
李伯 内國債ナレハ或ハ貴説ノ如ク元金ノ
償還ヨリモ利子ヲ得ルヲ欲スルナラント雖
モ外國ノ資金ヲ輸入スルナレハ非常ナル長
期ハ債主ノ嫌フ所ナラン

伊藤伯 夫レ等ノ點ハ畢竟信用ノ厚薄如何ニ
因ル若シ外國銀行家ノ如キ當業者ニ就キ詢
議セラル、ナラハ必スシモ貴見ノ如キニモ
非サルヘシ

李伯 然レトモ閣下ノ知ラル、如ク交戦已
来我國ノ信用ハ地ニ墜タリ

伊藤伯 余ハ遽ニ貴説ニ同スル能ハス其信用
ノ厚薄如何ハ姑ク措テ論セス貴國ハ地饒^{カニ}
民衆^シ其富源實ニ廣大無邊ニ^ハラスヤ

李伯 我國ノ富源如何ニ廣大無邊ナルモ未
タ開発セサルモノナレハ如何トモ為スヘカ
ラス

MT

MT

2-0 0 6 7

伊藤伯 貴國人衆四億ニ超エ我人口ヨリ多キ
コト實ニ十倍ナリ若シ富源ヲ開発セントナ
ラハ真ニ易々タルノミ

李伯 國大ニシテ民衆シト雖モ人傑ナキヲ
奈何

伊藤伯 國歩艱難ノ時ハ英雄四方ニ起リ以テ
國政ヲ執ルニ至ルハキカ常ナリ

李伯 (微笑シテ) 庶幾ハ我政府ニ建言シテ閣
下ヲ獎勵ニ禮聘シ授クルニ宰相ノ任ヲ以テ
セハ如何

伊藤伯 余ノ一身ハ我皇ニ奉リタルモノ若
シ陛下ニシテ許シ玉ハ、何時ニテモ貴國ノ
為ニ微力ヲ盡スヲ辞セス (未微笑シテ)

李伯 貴國陛下許容シ玉ハサレハ閣下ハ我
禮聘ニ應スルヲ渴サルカ

伊藤伯 博文ノ一身ハ既ニ我皇ノモノナレ
ハ陛下聴シ玉ハサルニ於テハ如何トモスハ
カラス進止唯々陛下ノ命シ玉ヲ所陛下若シ
許シ玉ハ、余ハ一身ヲ提ケテ貴國ノ艱難ニ
當ルヲ避ケス

MT

MT

李伯 實ニ今日ノ我國ハ困難ノ極ニ在ルモ
ノナリ……閣下ニ於テモ十分憫諒セラレ
タレ……今媾和條約ヲ訂結スルヲ得ルト
假定スルニモセヨ賠償金額ノ如キ直チニ世
人ニ知レ渡リ外國ノ資本家ハ我ノ困難ニ乘
シテ非常ノ高利ヲ貪ルヘシ然ルトキハ我國
ハ一層ノ困難ニ陷ラサルヲ得ス

伊藤伯 其レ等ノ點ニ就テハ余ハ何等談論ス
ルノ地位ニ在ラス

李伯 然レトモ今條約ヲ訂結スルコト

MT

トナラハ外國ノ資本金ハ必ス高利ニ在ラス
レハ貸與ヲ肯セサラン……一方ニハ既
ニ儼然タル條約ノ成ルアリテ動スヘカラス
若レ動カサハ清國ハ條約ヲ實踐セサル背約
者トナリテ再ニ貴國ノ怒ヲ速キ貴國ハ背約
ヲ以テ開戦ノ理由トセラレン事此ニ至ラハ
我國ハ困難名状スヘカラサル場合ニ陷ルヘ
キヲ以テ豫メ斯ル不幸ヲ見ルノ虞ナキハ
ニ條件ノ輕減ヲ乞ハサルヲ得ス閣下冀クハ
十分我カ事情ヲ酌ミ容易ニ妥協ヲ見ル為ニ

MT

更ニ考慮ヲ費サレシコトヲ

伊藤伯 條約一タニ成ウハ貴國ハ誠實履践ス
ル所ナカルヘカラス貴國若シ背約セハ我亦
止ムヲ得ス再ヒ之ヲ干戈ニ訴ヘサルヲ得サ
ルハ蓋リ必無ヲ期スヘカラス

李伯 左レハコソ余ハ今日ニ於テ必ス實踐
シ得ラルヘキ程度ニ至ラズ寛大ノ處(措)ヲ請ハ
サルヲ得ス

伊藤伯 此覺書ニ於テハ十分貴國ノ事情ヲ諒
察シ苟モ輕減シ得ヘキ限リハ輕減シタルヲ

以テ最早此上寸分モ宥恕スル能ハス

李伯 此上ハ寸分モ宥恕セラレサルカ

伊藤伯 此上宥恕スヘキ餘地ナシ

李伯 諸特ニ閣下ノ注意ヲ乞ヒタキ一事ハ

條約案中第一回ノ拂込ヲ了リタル後其未済
ノ残額ニ對シ毎年百分五ノ利子ヲ支拂フヘ

シトアルモ我國ニ於テハ償金ヲ拂ヒタル例

三回アルモ未ダ償金ニ對シテ利子ヲ拂

ヒタルコトナシ故ニ閣下ノ指命ニ從ヒ利子

ヲ支拂フコトヲ承諾セハ必スヤ先蹤ナキ事

MT

MT

トノ物議ヲ醸スノ憂慮アリ此事ハ深ク閣下
ノ注意セラレンコトヲ望ム

伊藤伯 清國ニテハ果例^先極^トトセラル、モ歐
洲ニテハ其例多シ

李伯 歐洲ノ例ヲ引援セラル、ハ我ニ於テ尤
モ困却スル所、償金ノ二億兩既ニ非常ノ巨額
ナルニ猶其殘額ニ對シ五朱ノ利子ヲ拂フコ
ト、ナウハ其總額ハ更ニ増嵩シ過モ清國ノ
負擔ニ堪ユル所ニ非^非ウス

伊藤伯 利子ヲ拂フシ欲セラレサルナラハ寧

ロ一時ニ支拂フシ可トス

李伯 (笑ヒナカラ) 飽マテ利子ノコトヲ主張
セウル、ニ於テハ利子丈^シ支拂ヒ元金ハ
其儘据置カル、ナウハ……

伊藤伯 (苦笑) 然ルトキハ我ハ貴國ノ為ニ債シ
募ルカ如キモノトナラン……

李伯 今火ク寛大ニ考慮セラレタシ

伊藤伯 閣下ハ頻リニ利子ヲ支拂フノ困難ヲ
道ハル、モ貴國ニシテ能ク一時皆済セラル
ルニ於テハ我ハ其金額ヲ運轉シテ當然利子

MT

MT

ヲ生セシムルヲ得、貴國若シ其支拂フヘキモ
ノヲ猶豫シテ之ヲ自國內ニ融通セラル、ニ
於テハ其生スル所ノ利子ハ即チ貴國ノ掌裡
ニ落ツルヲ以テ殘額ニ對スル利子シ支拂フ
ハ決レテ賠償金額ヲ更ニ増嵩スルモノニ
ラス若シ貴國カ其掌裡ニ落チタル利子シ我
ニ支拂ハサルニ於テハ其利子丈●ハ全ク貴
國ノ餘儲トナルノ理ニ^非スヤ

李伯 然レトモ利子丈●ハ是派トモ宥恕シ
乞ハサルヲ得ス、元金モ我國ノ便宜ノ

時ヲ以テ支拂フコトニ取極メラル、ナラハ

伊藤伯 何ソ然ルヲ得ンヤ

李伯 利子ハ全ク宥恕シ乞フノ外ナレ元金
既ニ巨額ナルニ之ニ加フルニ利子シ以テセ

ハ實ニ驚クヘキ金高トナラン

伊藤伯 拂込ノ期ヲ大ニ短縮スルナラハ少ク
考慮セントスル所ナキニ^非ラスト雖モ今ノ
割合ヲ以テ拂込ムニ於テハ利子ハ據ナク請
求セサルヲ得ス

MT

MT

李伯

閣下ノ了知セラル、如ク我カ國庫ニ

ハ實債トテハナシ談判結了條約調印セハ直
 タニ外國資本家ニ就キ外債ヲ募ラサルヲ得
 ス而シテ其募債ノ結果ヨリ貴國ハ拂込ムヘ
 キ期限ヲ短縮スルヲ得ハ誠ニ双方ノ便宜ナ
 リト雖モ其場合ニ至ラサレハ……貴命中
 「清國ハ何時タリトモ賠償金ノ全額或ハ其幾
 分ヲ前以テ一時ニ支拂フコトヲ得ヘシトア
 ルガ此場合ニ於テハ之ニ對スル利子ヲ拂フ
 ヲ要セストノ明言ヲ付加スルヲ拒マレサル

カ

伊藤伯

勿論ナリ

李伯

然ラハ償金ノ大部分ヲ一時ニ支拂フ

トキハ其殘額ニ對スル利子ヲ宥恕セラル、
 シ得ルカ例ヘハ初年ニ於テ一億五千萬兩ヲ
 支拂ヒタル場合ニ於テ……

伊藤伯

其レ等ハ一時拂込ノ金額ト殘額ノ多

寡ニ因リ考案モアランガ……殘額ノ多キ
 場合ニ於テハ之ニ對シ利子ヲ請求スルハ當
 然ノコトナリ

MT

MT

李伯 殘額ノ多少ハ前ニモ云ヘル如ク募債
ノ結果ニモ由ルナレハ今豫メ明言セスト雖
モ先ニ角利子丈々ハ宥恕セラレタレ先年英
佛兩國ハ支拂ヒタル時モ其年賦ニ對シテ利
子ヲ付セサリシ際下^御熟知^{セラル}如ク我國人ハ
外國ノ事例ニ疎ク唯々自國ノ例ノミニ拘泥
スルヲ以テ若シ先例ナキ條約ヲ訂結スルニ
於テハ紛議必ス百出セン

伊藤伯 其困難ヲ避クルニハ一時皆済スルカ
或ハ期限ヲ大ニ短縮スルノ外ナシト思考ス

内

間

李伯 貴渝洵ニ然リ然レトモ事外國資本家
ニ關連シ我政府ハ十分彼等ヲ操縦スルヲ得
サレハ彼等ト協定ノ結果ヲ以テスルニ^非チ
サレハ豫メ之ヲ明言スルヲ得ス……貴國
ハ即チ戰勝者我ハ即チ敗者ナレハ戰勝者ノ
指命スル所ハ何等條件ト雖モ敗者ニ於テ服
從セサルヲ得ストレタ此ノ如キ苛重ナル條
件ヲ以テ我ニ指命セラル、ニ於テハ到底能
ク我ノ堪ユル所ニ^非ラズ強ヒテ之ヲ指命セ
ラル、ナラハ我帝國ハ支離滅裂ノ最後ヲ見

MT

MT

ルニ至ルハ必然ナリ

伊藤伯 (儼然容ヲ改メ) 閣下ノ今ノ一言ハ本大
臣力提出シタル答議ヲ峻拒セラル、モノト
解シテ可ナルカ敢テ問フ

李伯 否々決シテ然ラス我政府ハ勿論本大
臣亦和ヲ乞フニ切實ナルハ閣下ノ夙ニ諒察
セラル、所ノ如レト雖モ清國ノ事情ヲ腹藏
ナク述ヘタルノミ

伊藤伯 果シテ然ラハ我ニ在テハ此覺書ニ記
述シタルモノヨリハ寸分モ輕減スルヲ得ス

李伯 次ニ土地ノコトニ付キ豫メ一言セン
ニ近ク普佛例ヲ見ルモ獨國ノ台領シタル佛
國境土ハ遙カニ廣大ナリシモ實際要求シタ
ルモノハ極メテ寛大ナリシ苟モ貴國軍隊ノ
台領セウレタルモノハ悉ク之ヲ要求シ加フ
ルニ未タ台領セウレサル臺灣ヲ以テセウレ
タルハ酷ナリ

伊藤伯 否決シテ具事例ニ乏シカラス英佛ノ
一例ノミヲ以テ論スヘカラス

李伯 英佛兩國カ北京城下ニ迫リタル時ノ

MT

MT

如キモ彼等ハ土地ノ割譲ヲ求メサリシ

伊藤伯 彼レト此レトハ日ヲ同シクシテ談ス

ヘキニ^非ラス

李伯 營口ハ閣下ノ知ラル、如ク開港場ニ

シテ東西南北ヨリ貨物雲集スルノ地實ニ我

政府ノ一財源タリ然ルニ貴國ハ一方ニ於テ

苛重ナル負擔ヲ命スルト同時ニ其收入ノ源

流ハ^此モ并セテ得ントセラルハ豈酷ナラス

トセンヤ

伊藤伯 止ムヲ得サルノ結果ナリ

内

閣

李伯 (笑ヒナカラ) 象ハ養フヘシ食物ハ典ヘ

スト云フニ同シカラスヤ

伊藤伯 (亦笑ヒナカラ) 普通ノ象ニ^非ラスシテ

異常ノ大象ナレハ……

李伯 假ニ營口シ貴國ニ收メラル、トセハ

貴國ハ無論營口ニ於テ徵稅セラレン然ルニ

營口ハ百貨四方ヨリ集ルモ何^モモ^物モ產出セ

サルノ地ナレハ營口ニ集マル貨物ハ貴我兩

國ヨリ二重ノ租稅ヲ課セラレ為メニ其價額

ヲ增高シ販路自ラ減縮シ必スヤ市場ノ衰退

MT

MT

ヲ来サン然ラハ貴國ニ收メラル、モ其甲斐
ナカルヘシ余ハ切ニ營口シ依然我カ有タラ
シメラレンコトシ望ム

伊藤伯 其レ等ノコトニ付テハ國境ニ適用ス
ル貿易章程通商條約ヲ設定セサルヘカラサレハ其時
機シ以テ十分協商スルヲ要ス

李伯 營口ノコトニ付テハ十分再考セラレ
タレ若シ互ニ其主張スル所ヲ固執シテ動カ
スシハ遂ニ妥協ヲ見ルヘカラス各々多少譲
歩スル所ナカルヘカラサルナリ

伊藤伯 閣下ノ答議ヲ熟読シ十分貴國ノ困難
ヲ諒恕シ苟モ為レ得ル限リ輕減シタルナレ
ハ此以上寛恕スルノ餘地ナシ即チ此覺書ヲ
以テ最後ノモノナリト承知セラレタシ

李伯 貴國カ未タ台領セラレサル臺灣マテ
モ要求ノ條件トセラル、ハ必ク其意ヲ解ス
ルニ苦シム所ナリ

伊藤伯 現ニ台領スルト否トハ敢テ問フ所ニ
非ラス假レ未タ台領セサルモ要求ノ條件ト
スルニ於テ何ノ妨ケカアランヤ

MT

MT

2-0067

李伯 現ニ台領セサル地ヲ要求セラル、ハ

其當ヲ得スト思考ス

伊藤伯 君レ然ラハ直ニ兵ヲ送テ台領セシメ

シカ如何

李伯 歐洲近代ノ例ヲ見ルニ土地ハ台領ス

ルモ必スレモ之カ割譲ヲ要求セサルカ多シ

希クハ寛洪ノ處分アラシコトヲ

伊藤伯 閣下ハ台領セサルノ土地ハ要求スル

ノ理ナレト云ハル、如クナルモ現ニ貴國ハ

東西伯利亞ヲ露國ハ割譲セラタルニ^非ラス

ヤ

李伯 東西伯利亞ヲ露國ハ割譲シタルハ戦

争ノ結果ニ^非ラス

伊藤伯 臺灣ト雖モ和ヲ議スルニ於テ理由ア

ルノ要求ナリ

李伯 臺灣ト黒龍江トハ^東米地^東割譲ノ差アリ

テ全ク比較レ得ヘキモノニ^非ラス黒龍江ハ

殆ト化外ノ瘠土人煙稀少ニシテ未タ政治ヲ

施カサルニ及シ臺灣ハ土地肥工物産饒多民

亦王化ニ服シ官署ヲ設ケ吏員ヲ置キ化然本

MT

MT

エノ如シ

伊藤伯 然レトモ清國主權ノ及フ所ノ版圖ヲ割キタルノ點ハ異同ナシ其土地ノ肥瘠ノ如キハ論スルヲ要セス

李伯 余既ニ耄スト雖モ貴意ハ了解セリ(笑)コナカラ(今現ニ閣下ノ指命セラル、條件ニ唯々諾々服従スルモ之ヲ實踐スルハ尤モ困難ナリ第一ハ二億兩ノ償金、第二ハ營口、第三ハ臺灣ノコトニ付尚再考セウレンコトヲ敢テ乞フ

伊藤伯 我ニ於テハ再考スルノ要ナシ此償書中ニ於テ何レノ點ハ同意スヘシト云ヒ何レノ點ハ同意スルヲ得スト明書シタレハ之ヲ以テ我カ最後ノ確言ナリト諒知セウレヨ

李伯 猶ホ引續キ談論スルヲ許サル、カ

伊藤伯 素ヨリ論談セラル、ヲ妨ケス然レトモ其ノ為メニ何等変更ヲ来サ、ルハ豫メ承知セラレタレ唯々今ノ時ニ於テ我々ノ最モ務ムヘキハ一日モ速ニ局ヲ結フニ在リ廣島ニ於テハ出征ノ準備已ニ成リ何時ヲ問ハス

MT

MT

2-0067

饒ヲ解カントスルノ運送船六十隻アリ現ニ
昨夜以来今朝^迄ノ間ニ當海峽ヲ通過シタ
ル運送船二十隻ニ達セリ尤モ休戦中ハ休戦
ノ義務ヲ嚴守スルコト勿論ナリト雖モ時機
一タヒ至ラハ直チニ進発スルヲ猶豫セス今
日ノ事唯タ我覺書・對レ閣下ヨリ諾否ノ決
答ヲ聞カンコトヲ欲スルノミ
李伯 休戦ノ期ハ尚ホ引續キ延期スルヲ許
サレサルカ
伊藤伯 此儘ニテハ延期スルヲ得ス但シ談判
整^調ニ條約調印セレ後ナラハ更ニ其時ヲ以テ
商議スルコトモアラン
李伯 昔佛戦争ノ時一タヒ休戦レテ再ニ其
期ヲ延シタル實例アルニ^非ラスヤ
伊藤伯 然レトモ當時佛國ノ形勢如何ヲ回想
セヨ王家既ニ休レテ恰モ無政府ノ如クナリ
レ苟モ其レ等事情ヲ悉●サスレテ一概論ス
ヘキニ^非ラス
李伯 大體ノ趣旨ニ於テハ既ニ識認スル所
然レトモ更ニ細目ニ涉テ商議ヲ盡サント欲

MT

MT

ス

伊藤伯 休戦期日猶ホ十日ヲ餘ス我々ハ此間ニ於テ結局スル所ナカルヘカウサルヲ以テ来ル十三日^迄閣下ノ決答ヲ待タントス閣下此日限ヲ誤ルナク断然諾否ヲ確答セウレ

メレ

李伯 腹藏ナク云ハハ此ノ如キ重大ナル事項ニ付テハ一々北京ニ打電シ我 皇帝陛下ノ勸慮ヲ仰カサルヲ得ス

伊藤伯 今日電報セウル、ナラハ明日頃返電到達セン

内

李伯 否其ノ如ク快速ニハ運ハス少クトモ五日間ノ暇ヲ乞ハサルヘカウス

伊藤伯 五日間ハ長キニ過ク

李伯 猶ホ十日間ノ餘裕アレハ五日間ノ猶豫ヲ與ヘラル、モ妨ケナカルヘシ^日總テ一應漢文ニ譯^{ヤサ}ルヘカウス

伊藤伯 多數ノ随員ヲ伴ハレシレハ翻譯ハ今宵^宵中ニモ成ラン而シテ今ヨリ北京ニ打電セラル、ナラハ三日間ニ返電ヲ得ル蓋シ難

MT

MT

2-0 0 6 7

0:23

キニ~~非~~サルヘシ

李伯 凡ソ四日目ニ返電ヲ得ル積リナルモ
確カニ云ヘハ五日間ノ猶豫ヲ乞ハサルヲ得
ス

伊藤伯 兎ニ角五日間ハ長シ……四日間ナ
ラハ足ラン

李伯 然レトモ北京政府ニ於テ論議スルノ
時間モ要スレハ……五日間ハ必要ナリ
伊藤伯 後次回ノ會見ハ同レク此所ニ於テスヘ
キカ

李伯 旅館ヲ接寺ニ於テセラル、ナラハ余
ノ至幸ト雖モ閣下ノ知ラル、如ク屋狭ク室
少ナレハ如何ニヤ……尤モ随員ハ遠慮セ
シメ且機密ノ漏洩ヲ防止スル為メニ従僕等
ハ他ニ移スノ手當セン若シヲ接寺ニ於テス
ルナラハ成ルヘク随員ヲ減セラレタシ
伊藤伯 余等ヨリ貴館へ趨クコト、ナラハ兩
名位ヲ同伴スルニ過キヌ(環視シツ)此場所
ハ稍々貴旅館ヨリハ廣シ寧ロ此所ニ移轉セ
ラレテハ如何

MT

MT

2-0067

0124

820171

李伯

許多ノ室アルカ

伊藤伯

一應随員ニ命シ検査^點セシメラレテハ

如何

李伯

兄ニ角今日ハ是レニテ拝辞セン

(談判終了互ニ辞別シタルハ六時^三十分)

内

附

MT

2-0 0 6 7

0:25

〇 會見要録第六回 四月十五日午後二時三十分

當日彼我出席者官氏名大々如し

欽差頭等 一等肅毅

全權辦理大臣伯爵伊藤博文 全權大臣伯李鴻章

内閣書誌長 伊東巳代治 鑒全權大臣 李經方

外務大臣秘書官 中田政義 正參贊官 伍慶芳

外務省翻譯官 陸奥廣吉 正參贊官 羅豐祿

外務省翻譯官 楠原陳政 ノ參贊官 馬建忠

(例) 如ク握手禮終リ着席ノ後 伊藤伯 漸ク快方ニ向ヘリ 今日モ出席セント

李伯 陸奥子其後快氣ナルヤ

伊藤伯 漸ク快方ニ向ヘリ 今日モ出席セント

云ヘルモ再笑ヲ恐レテ止メタリ

李伯 佐藤博士ヨリ聞ク所ニ依レハ猶外氣

ヲ冒スハ不可ナリト云ヘリ……李経方カ

昨日参館拝晤シ得タル顛末ハ逐一本人ヨリ

承知セリ而シテ此上ハ一步モ譲歩スル能ハ

ストノ貴意ヲモ領シタリ然レトモ閣下ノ指

命セウル、條件ニ悉ク服従スルハ我ニ於テ

困難甚シケレハ推テ再考ヲ請ハサルヲ得ス

伊藤伯 昨日余カ李経方氏ニ面會シタル時僅

述レ置キタル如ク已ニ為レ得ル限々ハ輕減

MT

MT

シタルコトナレハ最早如何トモスヘカラス
余ハ深ク閣下ノ要望ニ應スル能ハサルヲ遺
憾トスト雖モ余ノ及フ丈々ハ業已ニ十分盡
ス所アリシヲ諒セラレヨ

李伯 余ハ我 皇帝陛下ヨリ特ニ訓電ヲ拝
受シタリ其要ハ今回ノ事一ニ余カ斟酌決定
スル所ニ任スト云フニ在レハ余ノ責任愈々
重大トナリ若レ此上多少讓歩セラル、所ナ
クシハ余ノ双肩ニ懸ルノ重責ハ余ニ於テ肩
擔ニ勝ヘサラントス加之此條訂約スルトキ

ハ余ニ對スル攻撃益々甚シキヲ致レ遂ニ余
ハ如何ナル窮境ニ陥ランモ料知スヘカラス
伊藤伯 閣下カ双肩ニ重責ヲ荷ハル、意ヨリ
言ヲ待タス而シテ為ニ何等ノ攻撃ニ達フモ
豫メ之レニ當ルノ決心ナカルヘカラサルハ
勿論ニシテ此點ニ於テハ余ト雖モ毫モ異同
アルナク却テ余ノ負ヘル所ノ重責ノ過シル
モノアルヲ自信ス

李伯 今日閣下カ貴國ニ於ケル勢力ト余ノ
現状トハ同日ノ談ニ^非ラス閣下ノ重望能ク

MT

MT

他ヲ推服セシムルニ足リ亦妄リニ異議ヲ試
 シル者ナレト雖モ余ノ勢力ハ實ニ微弱ナル
 ハ其終ヲ全クスルニ於テ困マサルヲ得ス

伊藤伯 否、他ノ攻撃ヲ受シルノ一事ニ於テハ
 余ハ決シテ閣下ニ譲ラサルヲ信ス然レトモ
 一タニ重責ヲ負フテ難局ニ當ルニ於テハ断
 ヲ手トシテ進ムアルノミ

李伯 余亦攻撃ノ衝ニ當ルヲ覺悟スト雖モ
 余カ受シル所ノモノ、強且大ナルハ恐ラク
 ハ閣下ノ比ニ^非マサルヘシ

伊藤伯 我國ニ於ケル余ノ地位ハ貴國ニ於ケ
 ル閣下ノ地位ノ如ク堅確ナルモノニ^非ウス
 假令 陛下ノ御信^任ヲ辱クスト雖モ閣下ノ
 熟知セラル、如ク議會等ヨリ種々ノ攻撃ヲ
 受クル時ハ止ムヲ得スレテ其職ヲ去ラサル
 ハカウサルコトアリ(微笑)

李伯 閣下ノ聞知セラル、如ク昨々余ハ清
 廷ノ高位顯要ノ諸官ヨリ非常ナル攻撃ニ遭
 ヒ一時ハ革職セラレントスル^迄ニ至リタ
 リ

MT

MT

2-0067

0:28

伊藤伯 然レトモ閣下ニ及對シタル人々ハ力
及ハスレテ遂ニ閣下ヲ勦ス能ハサリレヨリ
案スレハ閣下ノ威望依然強大ナルヲ知ルニ
足ル

李伯 御史他ノ官職ヨリ余ヲ中傷スル惟一
ノ口實ハ李鴻章ハ伊藤伯ト平素親交アレハ
一旦事ヲ日本ト構フルニ於テ彼レノ言信ス
ヘカラスト云フニ^在アリキ然ルニ因ラスモ詔
命ヲ奉レテ貴國ニ使来レ此ニ閣下ト會見ス
ルコト、ナリタレハ彼等ハ其豫言ノ應當シ

タルヲ云ヒ余ニ對スル攻撃ハ更ニ我層ノ甚
レキヲ加フヘキヲ以テ余ノ地位ノ尤モ困難
ナルハ深ク悚然セラレンコトヲ望ム

伊藤伯 若シ其ノ如キ口實ヲ以テ閣下ヲ攻撃
スルナラハ彼等ハ自ラ中外ノ形勢ニ暗ク識
見ノ足ラサルヲ表明スルニ過キサルヲ信ス
李伯 今日ニ及テハ彼等ト雖モ前日ノ謬見
ヲ自覺スト雖モ若シ閣下ノ指命セラル、條
件ニ全然服従スルニ於テハ舉國ノ攻撃ヲ一
身ニ受クルハ到底免レ難キ所トス而レテ彼

MT

MT

等ハ必ス曰ハン李鴻章ハ伊藤伯ト平素親交
アレハ李ハ一モニモナク其指命ニ屈後シタ
リト

伊藤伯 凡ソ局外者ニ在テハ無責任ノ横議ヲ
逞クスルコト往々ニシテ之ニアリ而カモ概
ネ彼等ハ實際ノ大局ニ顧念セサルナリ今閣
下重任ヲ負フテ大事ヲ議セラル、ニ於テハ
徒ニ彼等ノ言説ニ憚ルナリ全局ヲ顧念シテ
能ク妥協ノ結果ヲ見ルニ至ランコト余ノ尤
モ閣下ニ望ム所ナリ

MT

李伯 余苟モ大任ヲ負フテ遠ク貴國ニ使シ
此大事ヲ議スルニ當テハ畢生ノ力ヲ盡シテ
和局ヲ結ビ以テ其責務ヲ完クセンコトヲ期
スルニ付余ヲシテ少シニテモ肩頭ノ重責ヲ
輕クシ使命ヲ果シテ帰國セシメラレシコト
ヲ望ム若シ幸ニ土地ノ割譲及賠償金ニ付キ
更ニ譲歩セラル、所アラハ余ハ直ニ商議ヲ
結了センコトヲ欲ス

MT

伊藤伯 昨日李経方氏ニ接述シタルカ如ク我
ニ在テハ十分輕減シタル以上ナレハ最早寸

分モ輕減スルノ餘地ナシ若シ閣下ト此ニ及
履談論セハ後ニ日時ヲ曠過スルノミニシテ
何等變更ヲ我要求ノ上ニ及ホスコトナケレ
ハ余ハ豫メ之ヲ避クル爲ニ我カ最後ノ要件
ヲ提出スルノ前ニ於テ十分貴國ノ困難ヲ察
シ且閣下ノ答議中ニ詳述セウレタル如キ事
情ヲ悉知レタル後ニ於テ我及フ限リハ寛宥
レ以テ閣下ヲレテ應諾スルニ易カラシメン
コトヲ務メタリ苟モ兩國全權大臣相會シテ
事ヲ商議スルニ當リ商客ガ駆リシ牙籌上ニ
弄スル底ノ手段ヲ取ルヘカラサルハ勿論ナ
レハ余ハ斷乎トシテ一躍極端ニテ輕減シ
リ以テ這般商議上ニ作畧ヲ用ササルノ意衷
ヲ明白ニレタルハ閣下モ亦識認セラル、所
ナラン

李伯 前日拜別ノ際握手シツ、償金ノ内尚
五千萬兩輕減セウレタルト哀訴ヲ試ミタル
カ閣下之ヲ峻拒セラレタルニ因リ今更メテ
閣下ノ再考ヲ乞ハントス幸ニ許諾セラル、
ニ於テ妥局ヲ見ル殊ニ快速ナラン

MT

MT

伊藤伯 若し為し得へキナラハ過日貴國ノ困
難ナル事情ヲ詳悉シタル時ニ於テ快ク輕減
スヘキナリ今現ニ指命スル所ノモノハ即チ
最後ノ要求ナレハ我ニ於テハ此上寸分モ輕
減スルノ餘地ナキヲ諒察セラレタシ

李伯 新聞紙ノ云フ所ノモノ必スシモ信ヲ
措キ難シト雖モ(李伯ハ「ジャパン・ペーパー」一
張ヲ取リテ伊藤伯ニ渡シナカシ)現ニ此新聞紙
ニ載スル所ニ依レハ貴國實際ノ軍費ハ八千
萬圓ニ過キスト云ヘリ然ルニ二億兩ヲ要求
セラルハ過多ニ^非ラヌヤ

伊藤伯 此新聞紙ハ殊ニ事實ヲ誤ルモノ多シ
平素我政府ニ及對スルヲ以テ主義トスルモ
ノナレハ苟モ我國ノ不利益トナルコトハ事
實ヲ推數セスレテ記載スルハ敢テ恠シトセズ
而シテ我國ノ實際消費シタル所ハ頗ル巨
額ナリ

李伯 兎ニ角多少ノ讓歩ハ乞ハサルヲ得ス
若シ五千萬兩ノ減殺ヲ承諾セラレサルナラ
ハ二千萬兩丈ニテモ輕減セラレタシ此ノ

MT

MT

如キ項少ノ譲歩ニテモ許容セラル、ニ於テ
ハ余ハ直ニ北京政府ニ打電シテ今日ニモ妥
句ヲ結ハント欲ス幸ニ許諾セラル、ヲ得ハ
深ク閣下ニ謝スヘシ

伊藤伯 再三陳述スル如ク我ニ於テ十分輕減
シタル以上ナレハ最早今日ニ及テハ聊ニテ
モ輕減スルヲ得ス

李伯 閣下ノ言ハル、所誠ニ當然ナリト雖
モ此上ハ余ノ一身ニ對シテモ多少ノ寛恕ヲ
許諾セラレタレ余ハ閣下ノ寛厚ヲ信スルヤ

深シ、、、、今回貴國ニ割讓セントスル土地
ハ尤モ富饒ニシテ若シ能ク開發スルニ於テ
ハ實ニ無盡藏タラン此ノ如キ土地ニ并セテ
償金マテモ支拂フナレハ我許力寛大ノ處置
アルモ敢テ貴國ノ不利益トナル謂レナシ
伊藤伯 將來如何ナル財源トナルカ否ハ自ラ
別問題ニ属シ目下此ノ如キ談論ニ涉ルヲ得
サルナリ

李伯 然レトモ貴國ニ於テ開發セラル、ト
キハ必ス歲入ノ一大源泉タルヲ疑ハス

MT

MT

伊藤伯 凡ソ開発スルニハ之ニ相當スルノ資

本ヲ投シ勞力ヲ費サルヘカラス

李伯 貴國人ノ才智學藝ヲ以テセハ將來非
常ナル財源タルヘキハ余カ断シテ保證スル
可ナリ

伊藤伯 余モ此レ等ノコトニ付テハ多少ノ経
験アリテ開発ノ為ニ要スル資本ト勞力ノ意
外ニ大ナルヲ知レリ

李伯 試ニ臺灣ヲ見ヨ土地富饒ニシテ物産
夥多、金礦アリ炭坑アリ又石油湧キ前途尤モ

多望ナリ我政府ニ於テハ是ニ總督ヲ置キ
テ將來ノ殷盛ヲ期シタルモ彼等ハ識卑クオ
足ラス其開発スヘキノ道ヲ知ラサレハ成迹
ノ見ルヘキモノナレト雖モ若シ一タニ貴國
人ノ手裏ニ委セハ其發達想フヘキナリ

伊藤伯 (笑ヒツ、) 若シ物産饒多トナラハ安價
ヲ以テ其貨物ヲ貴國ニ賣ラシムヘシ

李伯 (亦微笑) 然ラハ西國通商上ノ利益トナ
ラン

伊藤伯 然レトモ開発ニ要スル資本ト勞力ハ

MT

MT

極メテ大ナルモノナレハ臺灣ノ前途遽ニト
断スルヲ渴ス

李伯 最早今日ノ場合^迄進行シタル^{以上}

ハ貴國ニ於テモ多少ノ讓歩アリタレ貴國ニ
取リテハ實ニ瑣細ノ讓歩ト雖モ我ニ在テハ
其關係スル所至テ大ナリ何トナレハ屢々云
ヘル如ク和議成ルニ於テハ我ハ債ヲ外國ノ
資本家ニ起サハルヲ渴サレハナリ過般某外
國資本家ハ我國ノ必要ヲ察シ臺灣ヲ抵當ト
シテ二千萬磅貸與セント云ヘルモノアリ然

ルニ臺灣ハ今回貴國ニ讓與スルコト、ナラ
ハ今後ハ抵當ニ充ツルヲ渴サルヲ以テ再ヒ
債主タラシコトヲ望ムモノナカルヘシ但シ
臺灣ヲ賣渡^ス於テハ其價額決シテ二千萬磅
ニ止マラサルヘキハ勿論ナリ

伊藤伯 然レトモ貴國ノ富源甚々廣大ナレハ
前途極メテ多望ナリ

李伯 速ニ今日ノ事ヲ決定センコトヲ望ム

、、、、今少ク讓歩ヲ許サレサルカ

伊藤伯 如何ニ言ハル、トモ我ハ最後ノ要求

MT

MT

2-0067

0:35

ヲ提出シタルナレハ聊^カカ^リトモ許讓スルヲ
得ス

李伯 廣大ナル土地ヲ割讓セシメ其上巨額

ノ賠償金ヲ支拂ハシメントセラル、ハ恰モ

一個ノ瓦礫ヲ投シテ二羽ノ鳥ヲ獲ントスル

カ如シ是レ閣下ノ政畧ト解スルノ外ナシ

伊藤伯 苟モ此ノ如キ重大ナル問題ヲ商議ス

ルニ當リ政畧若クハ機畧ヲ用ヰルハ断シテ

余ノ為サ、ル所、此レ等ノ事柄ハ決シテ一人

一個ノ外交的機畧ヲ以テ決スハキニ非^ララス

畢竟戦争ノ結果タルコトヲ諒知セラレタシ

李伯 然レトモ我々ハ現ニ戦争ノ地位ニ在

在ルモノニ非^ラスレテ外交上ノ地位ニ在^ルモ

ノナリ

伊藤伯 然^固ヨリ然リ、然レトモ這般ノ問題ハ機

畧又ハ一人ノ力ヲ以テ決定セラルヘキニ非^ラ

ラス若シ一人ノ力ヲ以テ云ヘハ閣下ノ齡高

ク經驗ニ富マル、ハ固ヨリ余ノ企及スヘキ

所ニ非^ラサルナリ

李伯 若シ償金ニ於テ此上輕減セラレサル

MT

MT

ナラハ希クハ土地ノ割譲ニ付キ多少ノ許譲
アラシコトシ

伊藤伯 前來及覆スル如ク過日ノ要求ハ即チ
我ノ最後ノモノナレハ此上寸分モ譲歩スル
能ハス

李伯 最後ノ要求タルハ已ニ了知シ且飽
ニ應諾スルノ決心ナルモ尙ホ幾分ノ輕減ヲ
乞ハサルヲ得ス余カ老軀ヲ驅テ貴國ニ使來
レタルハ唯々和局ヲ結ハシカ為メナルハ今
更喋々シ要セスト雖モ閣下ノ指命セラレタ

ル條件ニ其儘服従スルトキハ余カ歸國ノ記
念物タル家苞ナキヲ以テ敢テ閣下ノ許譲ヲ
待ツ所以ナリ

伊藤伯 閣下歸國ノ記念物タル家苞ハ既ニ多
分ニ呈レタリト余ハ信ス實ハ當初ノ提議ヲ
飽_ニ主張セサルヘカラサリシモ貴國ノ困
難ナル事情ヲ悉知スルニ於テ閣下双肩ノ責
任ノ殊ニ重キヲ察シ又閣下ト積年ノ交誼ア
ルヲ思ヒ遂ニ大ニ當初ノ要求ヲ輕減シ事ノ進
捗ヲ見ル為メニ一躍シテ最後ノ條件ヲ提出

MT

MT

レタリ

李伯 閣下ハ已ニ^記念物タル家苞ヲ興ヘタ
リト云ハル、モ閣下ノ興フル所余ニ取りテ

ハ唯々執拗剛愎ノミト思フ(微笑)

伊藤伯 否、余ハ決シテ然カ信セス寧ロ讓歩ニ
過キタリト思考ス之カ為メ全國ヨリ如何ナ
ル攻撃ヲ受クルカモ知ラスト雖モ余ハ重責
ヲ負フテ攻撃ノ衝ニ當ルヲ辞セサルノ決心
ナリ故ニ此上ハ寸分モ許讓スルヲ得ス而シ
テ何等ノ懇請アルモ唯々時間ヲ空費スルノ

ミニシテ一ノ効果ナキヲ斷言セサルヲ得ス
若シ徒ニ談論ノ為ニ休戰期ヲ^限經過セハ再ヒ
兵馬ノ間ニ相見ユルコト、ナリ其終局ハ今
日ヨリモ更ニ巨大ナル要求ヲ提出セサルハ
カラサルニ至ルハ閣下ニ於テモ豫メ了知セ
ラレタレ

李伯 已ニ斯ク^迄ニ哀訴シテ許讓セラレ
サルニ於テハ閣下ハ此上寸分モ宥恕セラル
ルニ意ナシト承知シテ可ナルカ

伊藤伯 然^固リ

MT

MT

2-0067

0:38

李伯 然ラハ利息丈、何トカ恩諾ヲ得、

シ

伊藤伯 三年、~~三年~~年間に於テ總額ヲ償還セ

ラル、ナラハ尚ホ再考スルコトモアランカ
長期ノ年賦ナルニ於テハ是州トモ要求セサ
ルヲ得ス

李伯 若シ外國資本家ヨリ借入ノ事調ハサ

ル場合ニ當リ貴國ハ我國ノ公債證書ヲ受
クルコトヲ承諾セラレサルカ

伊藤伯 其事ハ既ニ前回ニモ云ヘル如ク我ハ

償金ヲ受取ルニ~~非~~スレテ貴國ノ債主トナ
ルナレハ貧國我ノ如キニ在テハ其餘裕ナキ

ヲ諒セヨ

李伯 否、貴國ハ甚々富メリ我ハ交戦中債ヲ

他國ニ起シタルモ貴國ハ曾テ軍資ヲ外國ニ
借ラレス

伊藤伯 外國債ヲ起スト否トハ一ニ財政ノ整

理スルト否トニ関レ之ヲ以テ直ニ其國ノ貧
富ヲ断定スルヲ得ス

李伯 財政整理ニ付テハ異日閣下ノ高教ヲ

MT

MT

①

2-0067

0:39

仰カントスルモノアリ……、兎ニ角今日ニ
在テハ外國ヨリ借入レサルヲ得スレテ其如
何ニシテ負債スヘキカハ余ノ甚々痛心スル
所、歸國ノ後ニ^非サレハ明言スルヲ得スト
雖モ若シ能ク三年間ヲ期シテ總額ヲ還清ス
ルヲ得ハ利息ハ全ク免除セウル、カ想フニ
利息ノコト貴國ニ取リテハ瑣細ノ額ナルモ
我ニ在テハ^係關重大ナリ……、全ク免除セ
ラル、ナラハ明ニ條約第四條中、清國ハ三年
内ニ總額ヲ支拂フニ於テハ利息ハ免除スト
ノ意ヲ加ヘラレンコトヲ望ム

MT

伊藤伯 若シ三年内ニ總額ヲ拂ヒ得サルトキ
ハ如何スルカ

李伯 然ルトキハ無論閣下ノ指命セラル、
如シ年五朱ノ利息ヲ拂フヘシ蓋シ此事ハ貴
國ニ取り格別ノ許讓ニ^非ササルヘシ余ハ清
國が三年間ヲ期シ悉皆償還スト信スルヲ得
スト雖モ條約中ニハ右ノ如ク明記セラレン
コトヲ希フ而シテ若シ三年間ニ皆済スルヲ
得タレハ其前ニ拂ヒタル利息ハ元金ニ繰入

MT

レラレンコトヲ望ム

伊藤伯 貴國ハ最初六箇月ヲ期シ先ツ五千萬
兩ヲ拂ハサルヘカラス而シテ利息ハ其後ノ
残額ニ對シテ生スルナレハ假ニ貴國ニ從フ
トスルモ頗ル其間ニ錯雜シ来スヘキヲ以テ
豫メ其紛乱ヲ避クルノ方便ヲ講セサルヘカ
ラス

(此時双方ニ於テ打算ヲ試ミルコトアリ)

李伯 三年内ニ總額皆済スルトキハ第二回
後ノ残額ニ對スル利息ハ即チ元金ニ繰入レ

ラレタシ

伊藤伯 然ラハ若シ三年内ニ皆済ニ至ラサル
トキハ元金ノ約束ニ復シ第二回已後ハ利息
ヲ要求スルナレハ貴國カ三年内ニ皆済スル
能ハサルトキハ計算上甚タ錯雜スルコト、
ナラン

李伯 若シ三年内ニ皆済スル能ハサルトキ
ハ既往ニ遡リテ元利總額ヲ拂ハサルヘカウ
サルハ勿論トス

伊藤伯 貴國ノ拂方如何ニ依リ頗ル紛雜シ来

MT

MT

2-0 0 6 7

スヘケレハ其方法ハ尚未熟考シ要ス

李伯 (笑ヒナカラ) 償金ノ額中二千萬兩丈々
輕減セラレサルカ、然ラハ利息ニ付テ
ノ哀願ハ取消スヘシ、計算上ノ紛乱ヲ
避クルヲ得ン

伊藤伯 償金ノ額ニ付テハ最早如何トモスヘ
カラス然レトモ利息ニ至テハ若シ貴國ニ於
テ三年間ヲ期シ皆済スルコトヲ確約セラル
ルトキハ敢テ免除シ拒マスト雖モ事尤モ確
實^非サレハ不可ナリ

李伯 實ニ二億兩ノ巨額ヲ明確ニ三年間ヲ
期シ皆済スヘシトハ余ノ保證ニ躊躇スル所
ナリ

伊藤伯 夫レ故ニ年賦ノ期限シモ長クシ以テ
貴國ノ償還ニ便ナラシメンコトヲ期シタリ
余ハ貴國財政ノ困難ナルヲ察シ年賦ノ便法
ヲ提出シタルナリ

李伯 我財政ノ困難ナルハ賢察ノ如シ^因ラ
總額ヨリ二千萬兩丈々輕減セラレタシ幸ニ
恩諾ヲ得ハ最早他ノ哀願ヲ試ミサルヘシ

MT

MT

2-0 0 6 7

0:42

伊藤伯 總額ヲ輕減スルコトハ如何ニ言ハル
ルモ應諾スルヲ得ス

李伯 若シ二千萬兩ニテモ輕減セラル
ルナラハ或ハ外國債ヲ起サスレテ事済ト
ナラシムルヘカラス

伊藤伯 其事ハ到底行ハレス

李伯 然レトモ少ク再考スルヲ得ラレサル
カ

伊藤伯 十分考慮シタル結果ヲ以テ閣下ニ示
シタルナレハ此上ハ如何トモスヘカラス

李経方 (李伯ト密話ノ後) 過刻米談論中ノ利息
ノ件ハ若シ清國ニ於テ三年間ニ皆済スルヲ
得ハ貴國ハ一銭ノ利息ヲモ要求セラレサル
コト、承知シテ可ナルカ尚ホ念ノ為メ高諭
ヲ煩シタシ

伊藤伯 果シテ能ク三年間ニ皆済セラル、ナ
ラハ利息ノ免除ヲ承諾スヘシ

李経方 三年間ニ皆済スルコトハ他ノ書面ヲ
以テ保證セン類クハ條約上ニ明記スルコト
ヲ恕セラレンコトヲ

MT

MT

伊藤伯 其事ハ承諾シ難シ事決定ノ上ハ條約
上ニ明記セサルヘカラス

李伯 今少ク寛大ナル賢慮ナキカ

伊藤伯 到底再考スルノ餘地ナキヲ如何セン
唯々貴國ニ於テ三年間ニ皆済シテ利息ノ免
除ヲ得ルカ將々利息ヲ付シテ年賦償還スル
カ二者其一ヲ擇ハル、ノ外ナシ余ハ前回ニ
於テ二年間ニ皆済セラル、ナラハ云々ト述
ヘ置キタルモ今日ハ更ニ一年ヲ緩クレテ三
年トレタリ閣下若シ之ニ同意スル能ハスン
ハ我ハ要求シ其儘ニ主張セサルヲ得ス……
再言スレハ貴國ハ三年間ニ皆済シテ利息ノ
免除ヲ得ルトモ利息ヲ拂フテ年賦償還スル
トモ貴國ノ欲スル所ニ任セ孰レカ其一ヲ撰
擇セラレタシ

李伯 曾テ英佛兩國ニ拂渡シタル償金ニ對
シテモ利息ヲ拂ヒタルコトナレ即チ我國ニ
在テハ償金ニ利子ヲ付スルハ先例トナシ

伊藤伯 (笑ヒナカウ) 英ハ富國ナリ素ヨリ我國
ト同日ニ論スヘカラス

MT

MT

李伯 然レトモ今回貴國ニ拂フ償金ノ額ハ

英國ニ拂ヒタルモノヨリハ遙カニ巨額ナリ

伊藤伯 其時英國ノ出シタル兵ハ今日我國カ

出セル如キ大兵ニハ^非サリシ

李伯 清國ニ大兵ヲ出サ、リシモ其印度ニ

置キタル兵數ハ極メテ大ナリキ

伊藤伯 印度ハ守備ノ為メ是洲トモ大兵シ此

駐セシムルノ必要アリシ

李伯 結局我哀願ヲ許容セラレサルニ於テ

ハ無利息ヲ以テ三年内ニ皆済スルトモ利息

ヲ拂ヒテ年賦償還スルトモ清國政府ノ便宜

ニ任スヘキコトヲ承諾セラレ之ヲ條約上ニ

明記セラレタレ例ハ三年間ニ皆済セハ利

子ハ付セス若シ年賦償還セハ利子ヲ付スト

云フ如クニシテ三年間ニ皆済レタル場合ニ

ハ既納ノ利息ハ元金ノ償還ニ充テラレンコ

トヲ望ム

伊藤伯 然ラハ貴説ニ應諾スヘシ

(此時伊東書記官長ヲシテ起草セシム其文

左ノ如シ)

MT

MT

條約批准ノ日ヨリ三年ノ間ニ總額ヲ皆
減スルトキハ總テ利子ヲ免除シ若シ眞
正^トニ二箇年ノ利子若シハ更ニ短期
ノ利子ヲ拂込ミタルモノアルトキハ之
ヲ元金ニ編入スヘシ

李伯 媾和條約第二條ニ曰フ「折線」ハ河流ノ
アル場所ニ於テハ其中央ヲ以テ國境トセン
コトヲ望ム營口ヲ以テ例セハ河川ノ中央ヲ
境界トスルカ如シ

伊藤伯 其事ハ異議ナシ

李伯 今回貴國ハ割讓スル土地ノ住民ニシ
テ其割讓前ヨリ不動産ヲ其土地ニ所有スル
モノハ假令日本ノ國籍ニ屬セサルモ引續キ
之ヲ所有スルヲ許サレンコトヲ望ム現ニ臺
灣ノ如キ内地ノ財産家ニシテ巨額ノ資ヲ投
入スルモノアリ是レ等ハ其身ノ清國ニ在ルノ
故ニ其所有權ヲ失フニ於テハ最モ困難スヘ
シ

伊藤伯 其レ等ノ事情アラシカ断シテ應スル
能ハス現ニ我國ニ於テハ外國人ニ不動産ノ

MT

MT

所有ヲ許サ、レハ割讓地ニ限リ外國人タル
貴國民ニ不動産ノ所有ヲ許ストキハ最惠國
約款ニ依リ他ノ外國人ニ向テモ均ク之ヲ許
サ、ルヘカラサルニ至ル此場合ニ於テ貴國
民ノ困難ヲ極フノ手段ハ唯タ歸化ノ一點
ルノミ

李伯 金州ノ人民ハ性柔順ナルモ臺灣ハ之
ニ及レテ獐惡ナレハ若シ清人ハ臺灣ニ於テ
不動産ヲ所有スルヲ得スト云ハ、彼等ハ如
何ナル騷擾ヲ惹起シ黑ヲ貴國ニ及ホスヤモ

料知スヘカラス

伊藤伯 一タヒ我國ニ引受ケタル以上ハ何等
ノ擾乱ヲ来スモ素ヨリ煩累ヲ貴國ニ及ホサ
ス十分責任ヲ負フテ鎮壓ノ道ヲ盡シ亦貴國
ノ配慮ヲ要セサルヘシ

李伯 臺灣總督ヨリノ電報ヲ見ルニ既ニ臺
灣ニ於テハ同地ノ日本ニ割讓セラルヘシト
ノ風説傳布セラレ為ニ住民ノ激昂甚シク彼
等ハ割讓ノ風説萬一ニモ事實トナラハ假令
枕ヲ^竝異テ日兵ノ殺戮ニ逢フモ我々ノ内一人

MT

MT

ニテモ生存スル間ハ断シテ日兵ノ上陸ヲ得
セシメスト声言セリト云フ余カ今之ヲ閣下
ニ告クルハ決シテ臺灣ノ要求ニ就キ閣下ノ
意思ヲ動カサシメントスルニ~~非~~ラス一個友
誼上ヨリ閣下ノ参考ニ資セント欲スルノミ
伊藤伯 其ノ如キ電報ハ余等亦接受ス然レト
モ我自ラ策アリ割譲後何等紛擾ヲ生スルモ
決シテ貴國ヲ煩累セサレハ介意スル勿レ

李伯 或ハ貴國官吏等ヲ暗殺スルコトナシ
ト云フヘカラス

伊藤伯 然リ~~國~~ヨリ必無テ期スヘカラス然レ
トモ止ムヲ得スンハ兵力ヲ用~~ル~~モ可ナリ
我ニ於テハ相當ノ道ヲ盡スヘキノミ

李伯 臺灣ニハ必ス兵備ヲ置カレンガ從來
同地ニ遣シタル清國ノ官吏等ハ已ニ永住ノ
目的ヲ以テ身後ノ計ヲ為スモノ少カラサレ
ハ貴國官吏カ引継~~ノ~~為ニ出張セラレタル時
ハ我官吏ノ事務其他~~ヲ~~臺灣~~東~~ル為ニ~~三~~相當~~ノ~~
餘裕ヲ興ヘラレタレ然ラサレハ復々其間種
々ノ行違~~ヲ~~ヲ生スルノ虞アリ

MT

MT

2-0 0 6 7

伊藤伯 貴國官吏ニシテ穩當ノ所為アラシニ
ハ無論差支ナシト雖モ萬一ニモ不穩ノ舉措
アルニ於テハ兵力ニ訴フルノ外ナシ

李伯 條約批准ノ時ハ貴國ヨリ其交換ノ為メ
ニ全權委員ヲ簡派セラレンガ其節ヲ以テ土
地引渡ニ関スル規定ヲモ十分商議セントス
而シテ貴國ニ割譲シタル土地ハ無論武官
ヲ派出セラルヘキモ之レト同時ニ文官ヲモ
派出セシメラレタシ然ラハ引渡細則ヲ議ス
ルニ於テ双方ノ便宜多シ又實際ノ引渡ハ批

准交換後六箇月ト決定セラレンコトヲ望ム

伊藤伯 六箇月ハ長キニ過クヲ以テ許諾シ
難シ

李伯 兎ニ角批准交換後引渡ニ関スル事項
ヲ商議スル為ニ双方ヨリ特ニ全權委員ヲ任
命セラレサルヘカラス

伊藤伯 條約第二條第二項ノ實行ニ就キテハ
別ニ取極書ヲ起草シ置キタリ

(此時伊藤伯ハ媾和條約第二條第二項實施
ニ関スル特別取極書ヲ示サレ李伯受ケテ

MT

MT

之ヲ熟読ス其全文左ノ如シ

明治二十八年 月 日即光緒二十一年
月 日日清西帝國間ニ締結セシ媾和
條約第二條第二項實施ニ関スル特別取
極書

第一、本日調印セシ媾和條約第二條第二項ニ
依テ割讓シタル土地ニ駐屯スル所ノ清
國軍隊ハ明治二十八年五月 日即光緒
二十一年 月 日ニ於テ其ノ占有スル

所ノ城壘兵器製造所及諸官有物ヲ日本
國軍隊ハ明渡スヘシ又前記清國軍隊ハ
同時ニ其ノ佩帶スル所ノ兵器ヲ日本國
軍隊ハ預テ置クヘシ但シ其ノ荷物并所
有物ハ之ヲ携去スルコトヲ得ヘシ

第二、清國軍隊ハ清國政府カ右割讓シタル土
地ヨリ之ヲ撤回スル迄日本國軍隊司令
ノ指定スル場所ニ退ヒテ駐在スヘシ

第三、清國政府ハ前記明渡ノ日ヨリ 日以内
ニ其ノ軍隊ヲ右割讓シタル土地ヨリ撤

MT

MT

2-0 0 6 7

0:50

四、前記清國軍隊ニ関スル諸費ハ清國政府ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第四、前記清國軍隊ノ撤回ヲ全ク了リタルトキハ日本國政府ハ該軍隊ガ日本國軍隊ハ預ケ置キタル其ノ佩帶スル所ノ兵器ヲ清國政府ヘ引渡スヘシ

第五、前記明渡ノ日ヨリ日本國政府ハ右割讓セラレタル土地ノ行政事務ヲ執行シ清國軍隊ヨリ明渡セシモノ、外其ノ他ノ

諸官有物ヲ占有スヘシ

第六、前各項ニ記載スル所ノ事項ヲ執行スル時間及其ノ他ノ細件ハ日清両帝國軍隊司令官ニ於テ取極ムヘシ而シテ該兩帝國軍隊司令官ハ止ムヲ得サル必要アルニ於テハ前各項ニ記載スル所ノ事項ヲ執行スヘキ期日ヲ變更スルノ權限ヲ有スヘシ

前記ノ取極ハ本日調印セシ媾和條約中ニ悉ク記入シタルト同一ノ效力ヲ有スルモノト

MT

MT

2-0067

0:5:

ス

右證據トレテ西帝國全權大臣ハ之ニ記名調
印スルモノナリ

明治二十八年 月 日即光緒二十一年 月
日下ノ儀ニ於テ四通ヲ作ル

李伯 批准交換後ニ於テ此事ヲ決定セラレ
タレ

伊藤伯 交換後ニテハ不可必ス今日ニ於テ決
定セサルヘカラス

李伯 實ハ臺灣ニ関シテハ余ハ同地總督ニ
指揮命令スルノ權力ヲ有セス^因テ批准交換
ノ時貴國ヨリ北京ニ簡派セラレタル全權委
員ト我總理衙門トノ間ニ於テ商議セラレン
コトヲ望ム然ラハ我總理衙門ハ其商議ノ結
果ヲ以テ臺灣總督ニ指揮スル所アルヘシ^因
テ此事ハ批准交換後通商航海條約陸路交通
貿易ニ関スル諸條約ト共ニ商議セラレタレ
伊藤伯 其ノ如キ遲緩ノ措置ヲ許サス必ス今
日ニ於テ確定セサルヘカラス

MT

MT

2-0 0 6 7

0:52

李伯 然レトモ批准交換ノ後ニ^非サレハ
土地ノ引渡ヲ為スヲ得サルハ勿論ナレハ交
換後全權委員シレテ實行セシムルノ外ナシ
今日ハ單ニ其事ノ約束ノミニ止メ置カレン
コトヲ望ム

伊藤伯 約束ノミニ止ムルハ不可ナリ我ハ實
際ノ引渡ヲ受クル為ニ何時ト雖モ全權委員
ヲ簡派スヘシ必ス今日ニ於テ確定スル所ナ
カルヘカラス

李伯 然レトモ余ハ臺灣總督ニ向ヒ何等指
揮スルノ權カヲ有セサレハ今日ニ於テハ如
何トモ明言スルヲ得ス

伊藤伯 批准交換後ハ^即臺灣ハ我主權ノ及
ブ所ナレハ其場合ニ於テハ何等商議スルヲ
要セス

李伯 臺灣ノ引渡ハ少クトモ六箇月ノ猶豫
ヲ乞ハサルヲ得ス現ニ我官吏及土豪等シレ
テ公松ノ事務ヲ纏束^束シ^束丈々ノ餘裕ヲ與ヘ
ラレサレハ或ハ為^メ不虞ノ変生スルナキヲ
保シ難シ

MT

MT

2-0067

0:53

伊藤伯 閣下ハ何故ニ今日此ノ取極書ニ同意
スル能ハサルカ

李伯 余ノ權力ノ及ハサル所ナレハ今決定
スルヲ得ス結局批准交換後兩國全權委員ヲ
シテ商議セシメラレタシト乞フノ外ナレ

伊藤伯 然ラハ閣下ハ何レノ日會同シテ何レ
ノ日マテ決定セントスルカ

李伯 其期限ハ今明答スルヲ得ス

伊藤伯 此モ承諾シ難シ

李伯 既ニ臺灣割讓ノ條約成リタル後ノコ

トナレハ兩國全權委員カ最後ノ引渡ニ付テ
ノ規定ヲ商議スルナレハ……

伊藤伯 然ラハ一定ノ期限ヲ確定セサルヘカ
ラス……先ツ批准交換後一箇月ト取極メ

置カン

(此時伊東書記官長起案ス其文左ノ如シ)

媾和條約批准交換後一箇月以内ニ双方ノ

政府ハ臺灣ニ委員ヲ派遣シ
同批准

交換後二箇月以内ニ最後ノ引渡ヲ遂行スヘシ

李伯 此ノ如クニシテ平和ヲ回復スルヲ得

MT

MT

ハ兩國ノ官吏互ニ交誼ヲ以テスヘケレハ左
期限ヲ嚴ニスルノ必要ナカラン……

(微笑)閣下ハ實ニ多シ望マル(you are too hungry)

伊藤伯 (苦笑一番)或ハ然カ想ハレン余自ラ空
腹ヲ感スルコト甚シ……、兎ニ角臺灣ハハ

批准交換後一箇月内ニ委員ヲ派シ二箇月内
ニ引渡ヲ受クルコトハ判然確定スルヲ要ス

李伯 然ラハ單ニ批准交換後二箇月内ニ委
員ヲ派シ並ニ引渡ヲ結了セシムルコト、シ
委員派遣ニ付テハ別ニ期限ヲ定メサル方寧

可ナラン^其故如何トナレハ必ス交換後一箇
月内ニ委員ヲ派遣スヘシト約セハ其期ノ短
キ為ニ却テ機ヲ誤リ遲々スルノ虞アレハナ
リ

伊藤伯 否、西件トモ必ス明確ニ決定スルヲ要
ス

李伯 然レトモ余ノ所言ヲ容レラル、方却
テ快捷ヲ見シ……、條約批准ヲ經ハ直ニ委
員ヲ派遣スルヲ得レハナリ

伊藤伯 然ラハ閣下ノ所言ノ如ク明書セハ可

MT

MT

ナリ

(此時伊東書記官長起案ス即チ左ノ如シ)

媾和條約批准^(交換)上ハ直ニ兩國政府ヨリ委負ヲ臺灣ニ派シ二箇月^以内ニ引渡ヲ實行

スルコト

李伯

承諾條約案中尚一ノ修正ヲ欲スルハ

第六條第四ニ「日本國臣民カ清國內地ニ於テ

貨品及生産物ヲ購買シ又ハ其輸入シタル商

品ヲ清國內地ニ運送スルニハ右購買品又ハ

運送品ヲ倉入スル為メ何等ノ税金取立金ヲ

モ納ムルコトナク又清國官吏ノ干渉ヲ受ク

ルコトナク一時倉庫ヲ借入ル、ノ權利ヲ有

スヘシトアルモ畢竟本項ハ税金取立金ヲ徴

セサルヲ以テ主トスルモノナレハ故ラニ清

國官吏ノ干渉ヲ受クルコトナレト云フカ如

キハ頗ル清國ノ體面ニ関スルモノアルヲ以

テ削除セラレンコトヲ望ム

伊藤伯

本項ハ必スシモ税金取立金ノ為メノ

ニニ^非ラス或ハ税金取立金ノ名ヲ用井ス他

ノ手段ヲ以テスル清國官吏ノ干渉ヲ防止ス

MT

MT

2-0 0 6 7

0:56

ル為ニ設定シタルモノナリ

李伯 假令然ルモ餘リ不体裁ナレハ削除セラレタレ……瑣細ノ事柄ナレハ其レ程マテニ主張セラレサルモ宜シト思考ス

伊藤伯 (暫ク默考レテ後) 然ラハ枉ケテ削除シ承諾セン

李伯 次ニ條約第六條第五ニ「日本臣民力清國ニ於テ納ムル諸税及手数料ハ……日本銀貨ヲ以テ納金」云々ノコトアルモ我國ニ在テハ庫平銀ヲ以テ殆ント本位トスルヲ以テ

貴國人民ト雖モ庫平銀ヲ以テ納金セシムルコトニ改メタレ

伊藤伯 或ハ然ル事情モアルヘケレハ日本銀貨云々以下ハ削除シ階下ノ要望ヲ容ルヘシ

李伯 尚ホ條約第六條第六ニ「日本臣民ハ清國ニ於テハ自由ニ各種ノ製造業ニ従事スルコトヲ得ヘシトアルニ依レハ即チ貴國臣民ハ領事館ノ設置ナキ場所ト雖モ全清國內ニ於テ自由ニ各種ノ製造業ニ従事スルコトナリ實際保護モ行届カサレハ清國ノ開港場

MT

MT

開市場ト云フ如ク其區域ヲ限定セラレタシ

伊藤伯 承諾

李伯 保護ノ為メ一時威海衛ヲ台領セラル
ルニハ凡ソ裁許ノ兵ヲ置カル、カ

伊藤伯 先ツ一萬位ノ積リナリ

李伯 威海衛ハ閣下ノ知ラル、如ク狹隘ナ
レハ迎モ一萬ノ大兵ヲ容ルヘカウス

伊藤伯 保護ノ為メナレハ止ムヲ得ス、
官舎不足ナレハ新築スルモ可ナリ

李伯 閣下ノ言ノ如ク大兵ヲ留メラル、ノ

必要ナカルヘシ、而シテ其費用シ清國
ニ負擔セシメラル、ハ固却ニ勝ヘス

伊藤伯 兵數ハ所謂軍界上ヨリ打算スルモノ
ナレハ今更多寡ヲ論スルノ要ナシ然レトモ

當初ノ計画ニ依レハ二師團即チ戦時ニ在テ
ハ四萬ノ兵ヲ二分シ一師團ヲ盛京ニ一師團

ヲ威海衛ニ置ク筈ナリレカ斯クテハ貴國ノ

負擔殊ニ重キヲ察シ凡ソ一萬位ニ_迄減ス
ル見込ナリ

李伯 假ニ一萬ノ兵ヲ留ムルニハ幾何ノ費

MT

MT

2-0067

0:58

用ヲ要スルカ

伊藤伯 凡ソ一ヶ年二百萬兩ハ要スヘシ

李伯 (少ク喫驚ノ色アリ) 英佛兩國ガ兵ヲ留

メタル時モ我ニ其費用ヲ負ハセサリキ

伊藤伯 歐洲ニハ其例ニ乏シカラス我ハ乃チ

歐洲ノ例ニ依レリ

李伯 巨額ノ償金ハ取ラレ、利息ハ取

ラレ、廣大ナル土地ハ取ラレ其上軍隊

ヲ駐屯スル費用マテ我ニ負擔セシメラレン

トス實ニ我ニ於テハ其苛重ニ任ヘス願クハ

留兵ノ費用ハ全ク免除セラレタシ

伊藤伯 償金ハ即チ軍費ヲ償フ為メナレハ我

ニ於テ何ノ得ル所モナシ又威海衛ノ駐兵ハ

保證ノ為メ一時台領スル實際ノ費用ナレハ

免除スルヲ得ス

李伯 一時台領ノ為メノ費用マテモ負擔ス

ルニ至テハ我ノ微力ナル實ニ堪ヘ難シ

伊藤伯 閣下ハ一時台領ノ費用ハ負擔ニ堪ヘ

スト云フヲ以テ口實トセラル、モ歐洲ニ於

テハ往々其事例アルコトナリ

MT

MT

2-0067

0:59

李伯 然レトモ英佛兩國ハ曾テ此ノ如キ費用ヲ我ニ要求セサリレ閣下若シ當時ノ事實ヲ査覈セラル、ナラハ同治十年彼等カ上海舟山太沽ニ兵ヲ駐屯シタルニ拘ラス費用ヲ要求セサリレ事實判明セン

伊藤伯 英佛兩國カ兵ヲ留メタルハ決シテ保證ノ為ニ非サリレ

李伯 兎ニ角已ニ重大ナル事項ニ同意シタル以上ハ瑣細ノ事項ニ付キ許讓セラル、所アルモ敢テ不可ナキニ似タリ

伊藤伯 閣下ハ此問題ヲ以テ瑣細トセラル、カ如レト雖モ我ニ取リテハ重大ナリ

李伯 或ハ然ラシモ已ニ土壤ヲ割典シ巨額ノ償金ヲ拂ヒ、利子ヲモ付スルコトヲ承諾シタルハ其金額ハ非常ノ高ニ達スヘシ是等巨額ニ比スレハ留兵入費ノ如キ貴國ニ取リテ敢テ重大ナリト云フハカラス、閣下若シ幸ニ許讓セラル、ナラハ總テ立刻ノ間ニ決定ヲ見ン

伊藤伯 閣下ハ何日ヲ期シテ媾和條約ノ調印

MT

MT

ヲ結了セントスルカ

李伯 淨書成リ校合シ了リタル上ハ何時ニ
テモ差支ナレ

伊藤伯 實ハ日清兩國カ英譯文ニ調印スルハ
西國ノ体面ニ関スルモノアルヲ以テ英文ハ
手^{所屬}ニ^{文トシテ}取換セ置キ本書日清
西文ニ調印セントス而シテ媾和條約ノ意義
ニ付キ異日ノ紛論ヲ防ク為ニ別ニ議定書ヲ
設ケントス

(此時伊藤伯ハ左ノ日清文議定書案ヲ李伯

ニ示サレ李伯直ニ同意ス

議定書

大日本國皇帝陛下ノ政府及大清國皇帝陛下
ノ政府ハ本日調印シタル媾和條約中ノ意義
ニ付將來誤解ヲ生スルコトヲ避ケムト欲ス
ル目的ヲ以テ双方ノ全權大臣ハ左ノ約定ニ
同意セリ

第一、本日調印セシ媾和條約ニ附スル所ノ
英譯文ハ該條約ノ日本文本文及漢文
本文ト同一ノ意義ヲ有スルモノタル

MT

MT

コトヲ約ス

第二、若該條約ノ日本文本文ト漢文本文ト

ノ間ニ解釋ヲ異ニシタルトキハ前記

英譯文ニ依テ決裁スヘキコトヲ約ス

第三、左ニ記名スル所ノ全權大臣ハ本議定

書ハ本日調印シタル媾和條約ト同時

ニ各西帝國政府ニ提供シ而シテ該條

約批准セラル、トキハ本議定書ニ掲

載スル所ノ諸約定モ別ニ正式ノ批准

ヲ要セスレテ亦西帝國政府ノ可認セ

レモノト見做スヘキコトヲ約ス

右證據トシテ西帝國全權大臣ハ之ニ記名調

印スルモノナリ

明治二十八年 月 日即光緒二十一年 月

日下ノ関ニ於テ二通ヲ作ル

(右漢文)

議訂專條

大日本國皇帝陛下政府及大清國皇帝陛下政

府。為豫防本日署名蓋印之和約。日後互有誤會

以生疑義。兩國所派全權大臣會同議訂下開各

MT

MT

2-0 0 6 7

0:62

款。

第一、彼此約明。本日署名蓋印之和約。添備英文。與該約日本正文漢正文。較對無訛。

第二、彼此約明。日後設有兩國各執日本正文或漢正文。有所辯論。即以上開英文譯本為憑。以免舛錯而照公允。

第三、彼此約明。將該議訂專條。與本日署名蓋印之和約。一齊送交各本國政府。而本日署名蓋印之和約請御筆批准之時。此議訂各款。無須另請御筆批准。亦認為兩國

政府所允准。各無異論。

為此兩國全權大臣。欲立文憑。各行署名蓋印。以昭確實。

明治二十八年 月 日即光緒二十一年
月 日於下之例。繕寫四份。

伊藤伯 我方ニハ日本文二通及英文二通ヲ作
ルヘキヲ以テ貴方ニ於テハ清文二通作ラレ
タレ

李伯 承知、貴方ノ譯書ハ何日了ニ竣成ヌ

MT

MT

ルカ

伊藤伯 今宵中ニモ成ルハシ

李伯 保護ノ為メ一時台領セラル、費用ノ
負擔ヲ全免セラル、ナラハ余ハ全ク指命ニ
服従セン伊藤伯 條約調印後十五日ヲ期シテ批准交換
セントス如何李伯 其事ハ北京ニ打電シ我 皇帝陛下ノ
允裁ヲ經タル後ニ^非サレハ明答シ難シ伊藤伯 批准交換ノ期日ハ必ス條約上ニ於テ
確定セサルヘカラス決シテ未定曖昧ニ付ス
ハカラサルモノナリ李伯 我清國ニ在テハ凡ソ外國ト條約上ニ
於テ批准交換ノ期日ヲ定メタル例ナシ兎ニ
角余カ天津ニ歸ルノ後直ニ專使ヲ北京ニ馳
セ余カ閣下ト會同商議シタル結果ヲ奏シ批
准前ニ於テ總理衙門及^{軍機處}軍機處^{軍機處}諮詢シ經ル等
ノ手續ヲ盡サルヘカラスハ是則トモ一
箇月間ノ猶豫ヲ要ス

伊藤伯 一箇月ハ長キニ過ク十五日ナレハ是

MT

MT

レリ……條約ヲ訂結スルニ當リ其批准交
換ノ期限ヲ規定セサルノ謂レナシ

李伯 余カ帰津ノ後專使ヲ北京ニ上レ諸般
ノ手續ヲ盡サレムルニハ少クトモ一箇月ノ
日子ヲ必要トス

伊藤伯 批准交換ノ期日ヲ定ムルノ義務ハ獨
リ一方ニ屬スルモノニ^非ウス乃チ双方ノ義
務ニ屬ス而レテ其期限ノ長キハ不可ナリ

李伯 貴國皇帝陛下ノ御座所ハ近邇ナルモ
我皇帝陛下ノ御座所ハ閣下ノ知ラル、如ク

遠遠ナレハ勢ヒ長期ヲ要ス

伊藤伯 批准交換ノ期日ヲ定ムルト同時ニ其
場所ヲモ確定セサルヘカラス

李伯 然リ願クハ貴國ヨリ使臣ヲ北京ニ派
出セシメラレタシ

伊藤伯 我ヨリ前往スルヲ得ス貴方ヨリ使臣
ヲ簡派セラレタシ

李伯 然ラハ^再横ヒ老体シ此地ニ^迄勞セヨ

ト命セラル、カ

伊藤伯 否、必スレモ閣下ヲ勞スルヲ要セス

MT

MT

李伯 既ニ和議成リタル以上ハ互ニ友睦ヲ
表スヘキハ勿論ナルヲ以テ貴國ヨリ使臣ヲ
天津ニ遣ハサル、トモ些ノ不都合ナカルヘ
シ余ハ兩國將來ニ於テ後來ヨリモ更ニ輯睦
セサルヘカラサルヲ知レハ貴國使臣カ天津
北京ニ前來セラル、ハ却テ兩國ノ厚誼ヲ増
ス所以ナリト信ス（注）此ノ批准交換ノ事ハ、
（注）此ノ批准交換ノ事ハ、
（注）此ノ批准交換ノ事ハ、

伊藤伯 余カ交換批准ノ期日及場所ニ付キ論
スルコト此ノ如ク嚴ナルハ抑々故アリ假令
媾和條約此ニ成ルモ批准交換ヲゾルハ

千里殊域ニ在ル我二十萬ノ大兵ハ風霜ニ暴
露セシメサルヘカラス是レ批准拒絕ノ場合
ニ於テハ星馳電撃進軍ヲ急ニセサルヘカラ
サルモノナリ是ヲ以テ批准交換早ク結了セ
ハ我兵ノ撤回随テ速カナルヲ得双方ノ便宜
多シ又交換ノ場所ハ旅順若クハ木連湾（威海衛）シ可
トス若シ此西地ノ内ナラハ或ハ小松宮殿下
ニ御委任アラセラル、コトモヤアラン
李伯 閣下ノ懸念セラル、所一理ナキニ
ラスト雖モ苟モ兩國全權ノ商議決定シタル

MT

MT

モノハ 我皇帝陛下ニ於テ批准ヲ拒絕セウ
ル、如キコト萬々ナレト信ス

伊藤伯 實際ニ於テハ西國全權ノ議定シタル
モノ、批准ヲ拒絕セラレサルハ閣下ノ言ノ
如クナラント雖モ君主ハ必ス批准ヲ拒否ス
ルヲ得スト云フノ理ナレ蓋シ君主ノ最上權
ヲ羈束スルノ嫌アレハナリ……此道理ヨ
リ推考スルトキハ萬一ノ場合ニ於テ批准拒
絶ノ事亦必スレモ無キヲ保スヘカラス

李伯 批准交換ハ天津ニ於テセラレタシ畢

竟形式上ニ止マルモノナレハ或ハ將官ヲ派
遣セラル、モ宜カラシ川上中將ノ如キカキ
適任カ

伊藤伯 孰レ適當ノ時機ニ於テ何人ニカ勅命
アラシ

李伯 川上中將ハ天津ニ於テ知人多ケレハ
双方ノ為メ好都合ナラント思考ス

伊藤伯 然レトモ中將ハ目下須臾モ我軍ヲ離
ル、ヲ得サ

李伯 條約調印済ノ上ハ最早戦争ナキヲ以

MT

MT

2-0067

0:57

テ中将一日モ貴軍ヲ離ルヲ得スト云フノ理
ナカルヘシ

伊藤伯 然レトモ貴國萬一批准ヲ拒絶セラル
ルニ於テハ我ハ直前勇進セサルヘカウサル
ニ非ラスヤ

李伯 決シテ批准拒絶ノコトナキヲ保證セ
ントス、批准アラハ直ニ閣下マテ電報
セン

伊藤伯 承知ス

李伯 其節ハ如何ナル暗號ヲ用井テ可ナル

カ

伊藤伯 暗號ニ及ハス通常語ニテ宜シ、
兎ニ角先ツ交換ノ期日ト場所トヲ議定セサ
ルヘカラス

李伯 期日ヲ決定シテ必ス何日ニ批准
交換セント云フハ 大權ヲ束縛スルノ悞リ
アリ

伊藤伯 苟モ兩國ノ全權相會シテ條約ヲ調印
スルニ於テ其批准交換ノ期ヲ確定セサルコ
トナレ若シ其期日ヲ規定スルナクンハ何等

MT

MT

2-0067

0:58

遅延ヲ来スノ虞ナレトセス故ニ余ハ限ルニ
十五日ヲ以テセンコトヲ欲ス

李伯 十五日ヲ限り確カニ批准交換スルコ
トハ余ノ明言スル能ハサル所若シ強テ規定
スルヲ要セストセハ少クトモ一箇月ヲ限ト
セラレタレ

伊藤伯 一箇月ハ長キニ過ク……我大兵ヲ
シテ一箇月ノ日子ヲ不定ノ間ニ彷徨セシム
ルヲ得ス期限ハ十五日ニテ足レリト雖モ更
ニ數歩ヲ譲リ三週日トセン貴意如何

李伯 厚意多謝然レトモ我ニ於テ週日ヲ用
井ルノ習慣ナレ

伊藤伯 然ラハ二十一日トスルモ又二十日間
トスルモ貴意ニ任スヘレト雖モ其^{以上}ニ遅
延スルコトハ断レテ同意シ難シ

李伯 交換ノ場所ハ天津ト決定セラレテハ
如何

伊藤伯 若シ天津トセハ勢ヒ多人数ヲ要スル
ヲ以テ不便甚シ現ニ本日接受シタル電報ニ
依ルモ我第一軍ヨリ休戦ノ軍使ヲ依將軍ノ

MT

MT

2-0 0 6 7

0:59

許ニ送リタルニ依將軍ヨリハ不都合千萬ナ
ル回答ヲ為シ由ニテ怪訝ニ堪ヘス^新使
臣ヲ天津ニ前往セシメンニハ相當ノ護衛兵
ヲ付^セルヲ得ス旅順^{威海衛}木連^{威海衛}津^{威海衛}ノ内ナ^ルハ此
ノ如キ行儀ヲ要セスレテ双方便宜ナルヘシ
……寧口芝罘ハ如何尤モ端下ヲ勞スルニ
及ハサルヘシ

李伯 天津ニテモ軍艦^{一隻}ヲ来ラル、ナラハ
何ノ憂慮カアラン

伊藤伯 我大軍艦ハ太沽^北河ノ淺瀬ヲ進行ス
ルヲ得ス

李伯 兎ニ角交換ノ場所ト期限ハ允裁ヲ請
フノ後ニ^非サレハ確答スルヲ得ス

伊藤伯 先ツ決定シテ後奏聞セラレテ可ナリ
苟モ兩國全權ノ會同商議シタル條約上ニ批
准交換ノ期日及其場所ヲ指定セサルノ理ナ
シ……平時ノ條約ナラハ率ヲ知ラス今回
ノ如キ場合ニ在テ締結スル條約ハ尤モ短期
ヲ以テ實行ヲ速ニセサルヘカラス……場
所ニ付テハ天津ハ人数ヲ要スヘケレハ同意

MT

MT

レ難シ

李伯 清國ニハ所謂壯士ナルモノナシ其邊
ハ安意セラレタレ尤モ我ニ在テモ十分警戒
スル所アルヘシ

伊藤伯 或ハ然ラント雖モ平和ヲ回復スル最
後ノ手續ナレハ慎戒ノ上ニモ慎戒ヲ加ヘサ
ルヘカラス

李伯 夫ノ威海衛ノ一時白領ニ関スル費用
ハ如何セウル、ノ意カ

伊藤伯 今ハ威海衛ノ軍費ヲ談論スル時機ニ

非
ラス宜シク先ツ批准交換ニ付テ議定スヘ
キナリ

李伯 期限ヲ一箇月トスルコトヲ许诺セウ
ル、ナラハ決定ノ後北京ニ奏聞スルコトモ
可ナリト雖モ十五日ニテハ何分即答スル能
ハス

伊藤伯 西國全權ノ議定シタル條約ハ正當ノ
理由ナクレテ批准ヲ拒否セウル、コトナシ
ト雖モ君主ハ其拒否ノ權利ヲ保有スルヲ以
テ萬一ノ場合ニ於テ絶無ヲ期スヘカラサル

MT

MT

ハ既ニ前ニ云ヘルカ如シ……閣下既ニ一箇月ナラハ奏聞シ後ニ先ツ條約上ニ議定スルニ同意スト云フ以上ハ十五日ト雖モ議定レ得サルノ理由ナキ筈ナリ如何

李伯 批准ヲ拒否セラルルノ懸念ハ萬々之レ無シ

伊藤伯 我々ハ苟モ兩國 皇帝陛下ノ勅命ニ依リ事ニ會商ニ從フニ於テ其重要ノ條項ヲ曖昧模糊ノ間ニ付シ去ル能ハス

李伯 然レトモ我 皇帝陛下ハ親ク文書ヲ

閱覽シ玉フノ後ニ^非サレハ批准セラレス
偶^因テ僅々タル日數ヲ期レテ交換スルコト難

キヲ信ス

伊藤伯 親ク閱覽スルノ後ニ^非サレハ批准
シ玉ハサルヘキハ双方相同シ獨リ貴國ノミ

然リトセンヤ

李伯 結局今後務ムヘキ事ニアリ其一ハ批准他ノ一ハ批准ノ交換是レナリ而シテ批准
済^ノ上ハ直チニ電知スヘキヲ以テ貴國ヨ
リハ車^車使員ヲ差遣セラレタシ

MT

MT

伊藤伯 或ハ親院ノ翌日ニ於テ直ニ批准セラル、コトナレト云フヘカウサレハ成ト
 丈、短期日ヲ以テ交換ノ時機ヲ決定シ置カサルヘカウス換言スレハ媾和條約ノ最後ノ重要事項ヲ曖昧ニ付シ去ルヘカウサルナリ
 閣下幸ニ審思熟慮セヨ

李伯 貴意ヲ領ス然レトモ二十日ニテハ何分應諾シ難シ、之ヲ三十日トセラル、モ其差ハ僅ニ十日間ナリ閣下ハ此ノ如キ事項ニ付テハ斯程ニ嚴談セラレサルモ可ナ

ラスヤ

伊藤伯 此事至テ重大ナリ元來十五日間ノ猶豫アラハ閣下カ天津ニ帰後北京ニ向テ當然ノ手續ヲ盡サル、ニ於テ十分ナリト信スルモ頻リニ困難ヲ訴ハラル、ニ由リ更ニ二十日トシタルナレハ我ニ於テハ最早此上讓歩スルヲ得ス

李伯 今日直ニ其期ヲ定メルハ余ニ於テ尤モ困難ナリ、尚ホ一言スルヲ許サレタレ、余カ天津ニ帰着スルトキハ我國ノ

MT

MT

例トシテ使事ノ顛末ヲ北京ニ奏聞シ別ニ文
書ノ謄本ヲ添フコトナルカ此謄本ハ直チニ
總理衙門ニ回付セラレ次キニ 軍機處 譯者ノ諮
詢ヲ經名々其奉答スルヲ待チテ批准セラル
ルナレハ之カ為メニ要スル時間ハ決シテ少
キニアラサルヲ諒セラレタシ

伊藤伯 今回ノ平和條約ハ重大無比ノモノナ
レハ平時ノ繩墨ニ拘泥スヘカラス殊ニ遑々
緩々タル處分ハ貴國ノ為ニ許サレサルノ事
由存スルニ 非ラスヤ

李伯 真ニ然リ左レハコソ余ハ一箇月ナラ
ハ貴命ニ従ハント云ヘリ若シ尋常ノ場合ナ
ランニハ結約批准マテニ殆ント一年ヲ費ス
ハ我國ノ常ニシテ敢テ怪トセサル所ナリ
閣下ハ我國ノ事情ニ熟通セラル、ニモ
拘ラス嚴談此ニ至ルハ少ク酷ニ 非ラスヤ
伊藤伯 閣下ノ言奇怪甚シ、、現ニ日英條
約ハ昨年七月十七日ヲ以テ調印ナリ翌十
八日ヲ以テ 女皇陛下ハ批准セラレタリ平
時ニ於テスラ猶此ノ如シ今回ノ媾和ノ條約

MT

MT

ノ如キハ實ニ瞬刻モ猶豫スヘカラサル性質
ノモノニシテ貴國ノ利害ニ関スル極メ切
要ナルヘキニ遲緩此ノ如キハ余ノ了解ニ苦
ム所ナリ

李伯 假シ直ニ批准セラル、モ北京ヨリ使
臣ヲ芝罘ニ遣スマテニハ京津間……津芝
間……餘程ノ日子ヲ要ス

伊藤伯 天津芝罘間ハ一日ニテ足レリ如何ニ
多キヲ要スルモ二日ヲ出ナス

李伯 場所ハ高諭ニ從ヒ芝罘ト決定セン、
……期日ハ僅々ノ差ナレハ枉ケテ余ノ請ヲ
許サレタレ

伊藤伯 其差違ハ決シテ僅少ニアラス現ニ旅
順其他台領地ニ在ル我大軍ハ營舎ノ不足ノ
為メニ露營スルモアレハ船内ニ起居スルモ
アリ我ニ在テハ一日モ速ニ其所向ヲ決定セ
サルヘカラサルナリ

李伯 現ニ條約調印済ミタレハ直ニ兵ヲ呼
戻サル、モ可ナリ……余カ遠ク貴國ニ使
来シテ事ヲ妥協シタル以上ハ少ク安心セウ

MT

MT

レタシ……一箇月ハ決シテ我ニ於テ長シ
トセス

伊藤伯 余ハ十五日ニテ十分ナリト思惟スル
モ閣下ニ對シ枉ケテ二十日トシタルナレハ
此上讓歩スルヲ得ス

李伯 貴方ニ在テハ行在所近シト雖モ我方
ニ於テハ歸津ノ後專使ヲ北京ニ馳セ夫々手
續ヲ經サルヘカラスシテ唯々御璽ヲ鈐スル
文ニテモ其手数容易ナラス而シテ後使臣
ヲ任命セウル、ナレハ使臣カ指定ノ場所ニ

到達スル^迄ニハ餘程ノ日子ヲ要スヘキヲ
以テ十分事情ヲ諒察セラレタシ

伊藤伯 然レトモ一箇月ハ到底同意スル能ハ
ス

李伯 此ノ如キ瑣細ナル事項ノ為ニ双方意
見ノ一致セサルハ遺憾ナリ閣下ハ我國ノ習
慣ニ熟通セラレ事ヲ處スルニ遲緩ナルヲモ
了知セラレン……條約上一箇月ト規定
シ置クモ余ハ成ルヘク其期ヲ速ニスルコト
ヲ努ムヘレ若シ限ルニ二十日ヲ以テセハ一

MT

MT

日ヲ過クルモ我ハ背約者トナリ為ニ再ヒ葛藤ヲ生センコトヲ恐ル

伊藤伯 歐洲ニ於テハ媾和條件ノ批准ハ概ネ
調印即日ヲ以テスルノ例ニシテ平時ノ條約
ノ如ク公務上ノ手續ニ時日ヲ費スコトナシ

李伯 (微笑) 然レトモ清國ハ歐洲中ニアラス

(China is not a part of Europe) 閣下請フ歐洲ノ例
ヲ以テ清國ヲ律スル勿レ……場所ハ閣下
ノ指命ニ從ヒタレハ期限ハ余ノ哀願ヲ容レ
ラレヨ

MT

伊藤伯 期限ノコト閣下ハ細小ナリト云ハル
ルモ余ハ断レテ同意スル能ハス

李伯 一時台領ノ費用ハ如何セラル、カ

伊藤伯 是レ亦削除スルヲ得ス

李伯 然ラハ如何セハ可ナルカ再考アリタ

レ

伊藤伯 貴國財政ノ困難ナル事情ヲ想察シ枉
ケテ其半ヲ宥恕スヘケレハ貴國ニ於テ其半

額ヲ負擔セラルヘシ

MT

李伯 高義多謝ス然レトモ元來二百萬兩ハ

巨額ニ過リ先ツ之ヲ折半シテ百萬兩トシ更ニ其半額即チ五十萬兩ヲ我ニ於テ負擔セントス但シ其兵數ノ多寡ハ一ニ貴國ノ任意ヲ以テ定メラレタシ

伊藤伯 五十萬兩ニテハ一聯隊ノ費用ヲ償フニモ足ラス

李伯 然レトモ最早決シテ大兵ヲ留メラルノ必要ナシ(笑ヒナカラ)何トナレハ清國ハ

此上戦争スルノ意思モナケレハナリ

伊藤伯 強チ戦争ノ有無ニ関セス我ハ保護ノ

為メ駐兵セシムルノ要アリ

李伯 貴國ト我國トハ所謂一葦帶水何時ニテモ送兵スルニ難カラサルヘシ

伊藤伯 送兵ノ難易如何ヲ問ハス保護ノ為ニ相當ナル兵數ハ駐留セシメサルヲ得ス

李伯 少ク寛大ニセラル、モ不可ナカラン英佛兩國ノ例ニ依ルモ我國ハ此ノ如キ費用ヲ負擔シタルコトナシ保護ノ為メト云セナカラ貴國ノ處置亦苛酷ナラスヤ

伊藤伯 批准交換ノ期日ハ如何セラル、カ

MT

MT

李伯 是非トモ一箇月ノ猶豫ヲ與ヘラレタ
シ

伊藤伯 一箇月ハ許諾シ難シ我々ハ條約ノ調
印ヲ急クト同時ニ批准及批准ノ交換ヲ急カ
サルヘカラサルナリ

李伯 我方ニ在テハ北京トノ距離ヨリ察セ
ラル、モ一箇月ノ猶豫ハ當然ナリト思考ス
伊藤伯 假令距離ヨリ云フモ二十日ニテ十分
ナリ

李伯 貴方ニハ十分ナランカ我ニ取リテハ
甚タ不十分ナリ

伊藤伯 閣下若シ批准交換ノ期ヲ二十日トス
ルニ同意セラル、ナラハ余ハ留兵費ノ内五
十萬兩ヲ貴國ニ負擔セシムルコトヲ許諾セ
ン

李伯 其ハ餘リ執拗ニ^非ラスヤ閣下ノ嚴談
真ニ堪ユヘカラス、此ノ如キ瑣細ノ事
項ニ付キ多少許讓セラル、モ決シテ不當ニ
^非サルヘシ

伊藤伯 余ニ於テハ此事項ヲ輕視スル能ハス

MT

MT

李伯 然ラハ余ハ北京ニ打電シテ先ツ允裁

ヲ請フノ外ナシ

伊藤伯 既ニ一箇月ナラハ直ニ同意スヘシト

云ヘル閣下ニシテ二十日ナラハ先ツ允裁ヲ

請ハカルヘカラストハ何等ノ理由ソ

李伯 僅々十日位ノコトニシテ背約トナラ

ハ再ヒ事端ヲ生スヘキヲ慮リ余ハ堅ク一箇

月ノ猶豫ヲ請フノ意見ヲ執レリ……今日

ハ餘程時間ヲ費シ疲勞甚シキヲ以テ軍費ノ

負擔丈々五十萬兩ト定メ批准交換ノ期限

ハ暫ク未定ニ付シ置キメレ……明日文書

調整ノ上伍庭芳^廷ヲシテ貴方ニ趨伺セシムヘ

キニ付其^廷即庭芳ト商議セラレンコトヲ希望

ス

伊藤伯 我方ニ於テハ明朝^廷……否今

宵中ニモ文書ヲ調製スルヲ得ヘケレハ成ル

ヘク速ニ調印結了センコトヲ欲ス閣下ハ何

日ヲ擇ハル、カ

李伯 明後十七日午前十時ヲ期シテ調印セ

ンコトヲ望ム

MT

MT

820227

伊藤伯 諾

(談判此ニ終ル午後七時^三十分互ニ握手辭別
スルニ臨ミ李伯ハ笑ヒナカラ伊藤伯ニ向
テ曰ク閣下ハ斯クマテ嚴酷執拗ナル人ト
ハ思ハサリシト伊藤伯亦微笑シ答テ曰ク
國事ヲ商議スルニ當テハ詢ニ止ムヲ得サ
ルニ^非アラスヤト)

MT

2-0 0 6 7

0:8:

會見要録第四

MT

2-0 0 6 7

0:82

820228

四月十七日午前十時

欽差頭等

全權大臣伯李鴻章

欽差全權大臣 李經畧

伊東已代治

子參贊官

井上勝之助

2 參贊官

羅豐祿

中田敬義

參贊官

馬建忠

陸奥廣志

翻譯官

盧永銘

猶原陳政

例、如ク握手禮終リ着席

先是、我全權大臣、引彼、

前回會見後批准交換、期限ノコトニ付

直今ニ本國政府ニ打電シタルニ我 皇帝陛下

下ヨリ未タ何等ノ訓電ニ接セヌ然レトモ既

ニ今日ニ至テハ責任ヲ負フテ決定スルノ外

ナキヲ以テ陛下ノ要求ニ應ジ即チ條約中ニ

明記スルコト、セシ（笑ヒナカウ）是レ全権ノ

全権タル所以ヲ實際ニ證明スルモノナリ、

右ニテ悉皆結了シタレハ今日ハ昨日調

製シ置キタル書類ヲ^{複製}照調印セントス而シ

テ調印事了ラハ余ハ直ニ乗船帰途ニ就カ

MT

MT

ンコトヲ欲ス其前程ヲ急ク所以ノモノハ斯
ク^陸自ラ重責ヲ負フテ事ヲ決定シタルニ
於テハ本國ニ於ケル攻撃非難意想ノ外ニア
ラン^例早ク帰國シテ豫メ攻撃ヲ防壓スル
ノ道ヲ講セサルヘカウサルノ要アルニ由ル
余ハ一身ヲ以テ事ニ當ル以上ハ其攻撃ノ焼
點トナルハ^素ヨリ覺悟スル所アリト雖モ成
ルヘク先制ノ手段ヲ取ラサルヲ得ス

伊藤伯 (屢々首肯シ) 余ハ閣下ノ胸中ヲ推察シ
深ク敬重スル所アリ

李伯 昨日ハ更ニ休戦延^期約ヲ許サル、首通
達セラレ深ク其高義ヲ謝ス實ハ此事ニ付テ
ハ如何スヘキヤト竊カニ苦心中ノ^慶早クモ
尊慮ノ此ニ及ヒタルハ余ノ感謝ニ堪ヘサル
所ナリ

伊藤伯 今日^陸ノ會見ノ結果ハ直今ニ天
聽ニ達スル積リナリ

李伯 (首肯シテ) 今日調印ヲ終ラハ即チ兩國
ノ平和ハ回復セラレタルモノナレハ之ヲ將
來永遠ニ保續シ兩國ノ友誼ハ旧日ヨリモ更

MT

MT

ニ親厚ナルヘキヲ希望ス就テハ貴國ニ於テ
モ永ク大兵ヲ外ニ留メラル、要ナルヘク
願クハ一日モ速ニ撤兵セラレタシ境土ヲ接
シテ大兵ヲ駐ムルハ自ラ事端ヲ滋スノ虞アリ
是レ等ハ閣下ニ於テモ厚ク考慮セラレン
コトヲ望ム

伊藤伯 此ノ如ク平和ヲ克復スルニ於テ從來
ヨリモ更ニ友誼ヲ厚クシ永遠輯睦ノ基礎ヲ
奠メサルヘカラサルハ余ノ希フ所亦貴國ト
符合ス將來事端ヲ生スルヲ防クノ道ヲ盡ス

スニ於テモ全然盛意ニ同感ヲ表ス、今
閣下大事ニ任シ遠ク此地ニ使来セラレタ
ルモ軍國多事ノ際且見聞セラル、如キ邊陲
ナレハ接遇意ニ任セサルモノナハ九ニ居
リ遺憾甚シ若シ閣下ノ來遊シテ平和ノ時
タラシメハ少ク貴意ヲ慰藉スルモノアリシ
ナラン閣下幸ニ諒恕セヨ

李伯 此地廣カラスト雖モ山水ノ景色ニ富
ミ着後懇切ナル待遇ヲ忝クシ旅館ノ如キ尤
モ鄭重ヲ盡サレ厚意謝スル所ヲ知ラス、

MT

MT

先年閣下ト天津ニ拝接シタル後正ニ十年余
ハ其答禮シ兼ネ一タヒ貴國ニ遊ハシコトヲ
欲シタルモ國務執掌寸隙ヲ得ヌ存茲遂ニ今
日ニ至レリ余カ竊ニ貴國ニ漫遊セシコトヲ
望ミタルハ當ニ兩國交際ノ為メノミナラス
親ク貴國進歩ヲ目睹シ以テ大ニ我國ノ為メ
利スル所アラントシタルモ事意ト差ヒ空ク
其機會ヲ過キタルハ余ノ尤モ遺憾トスル所
ナリ

伊藤伯 閣下カ永ク我國ニ滞留セス會商僅ニ

結了シ匆忙帰國セラレサルヘカラサルハ余殊ニ遺憾
トス然レトモ兩國平和回復ノ後ニ於テハ余ハ切ニ
閣下ノ來遊ヲ請ハント欲スト雖モ今日閣下ノ貴國
政府ニ於ケル地位ハ閣下ヲシテ遠ク他邦ニ遊フヲ許
サルコトヲ信スルニ因リ閣下ニシテ尚ホ如何トモシ難
シト雖モ異日貴國官吏ヲ簡派シ我國諸般ノ文化ヲ
視察セシメラル、ニ於テハ余ハ一切ノ事物ヲ觀覽ニ供シ
亦聊モ秘藏スル所ナカラントス是レ貴國將來ノ為メ
多少ノ補益アルヘキヲ信ス余ハ閣下カ俊オヲ撰テ我ノ實
際ヲ見聞セシメラレンコトヲ望ムモノナリ、、、批准

MT

MT

交換後ハ即チ平和ノ交際ヲ回復スルモノナ
レハ互ニ全權公使ヲ駐劄セシメサルヘカウ
サルハ勿論ナルカ貴國李經羲氏ニ任命セウ
ル、ヲ得ハ西國ノ為メ多幸ナルヘシ元來氏
ハ任期未タ満タス丁度ノ為ニ歸國セラレ乃
チ汪鳳藻氏其後ヲ襲ヒタルナレハ今回平和
後ニ於テ更ニ李氏ヲ撰任セラレタレト余ハ
竊ニ望メリ

李伯 我國ヨリ差遣スル全權公使ヲ撰任ハ
皇帝陛下ノ敎慮ニ依レハ今如何トモ明言ス

（カラスト雖モ新任公使ハ兎ニ角汪鳳藻氏
ノ如キ事情ニ通セサル人物ハ撰ハス（苦笑シ
ツ、）

伊藤伯 貴國公使ハ我政府ノ意向ヲ故サラニ
誤報（強ク云フ）スルカ如キハキ人物ヲ撰擇セウ
レサルヘカラス

李伯 （首肯）内實ヲ云ハ、汪鳳藻如キ者ヲ貴
國ニ差遣セス今少ク識力アルノ器ヲ擇ヒタ
ラシニハ今日ノ如キ場合ニモ至ラザリシナ
ラン平時ニ在テ西國ニ駐劄スル公使其人ハ

MT

MT

尤モ能ク其國情ニ通シ相互ノ感情ニ微嫌アルモ力ヲ盡シテ之ヲ融和スルノ誠實アルヲ要ス然ルニ汪鳳藻ノ如キハ針小ヲ棒大ニシ却テ自ラ輯睦ヲ破テ大事ヲ誤ルヲ致ス洵ニ鑒ミサルヘカラス

伊藤伯 余ハ數々汪鳳藻氏ニ面會シタルカ一身^上ニ於テハ此ノ嫌思スヘキ人物ニアラスト雖モ氏カ我政府ノ真意ノ存スル所ヲ貴國政府ニ直言セサリレハ尤モ遺憾トスル所ナリ

李伯 實ハ彼カ如キ人物シ貴國ニ差遣シタルガ我政府第一ノ過誤ナリシ

伊藤伯 貴國皇帝陛下ニ於テ媾和條約ヲ批准セラレタルトキハ直ニ閣下ヨリ余ニ電知セラレ之ト同時ニ双方ノ政府ヨリ全權委員ヲ派遣スルノ約ナルカ我ニ於テハ即チ此席ニ列スル伊東内閣書記官長ヲ以テ全權委員トスルコトヲ余ハ陛下ニ奏薦セント思考ス任命ハ一ニ陛下ノ大權ニ屬スルコト敢テ論シ待タスト雖モ余カ輔弼ノ任ニ在ルニ

MT

MT

於テハ同氏ヲ以テ今次ノ全權委員タラシメ
ンコトヲ欲ス同氏ノ官位ハ中將ト相等キシ
以テ即チ川上中將ト同等ノ人ナリ貴國ヨリ
モ宜ク同氏ト相對スルニ足ル官位ニ在ルノ
人ヲ以テ全權委員タラシムヘシ

李伯 承知ス閣下ヨリ伊東書記官長ヲ奏薦
セウル、ニ於テハ同氏ニ任命アルヲ疑ハス
我方ニ在テハ未タ何人ヲ以テ此任ニ當ラシ
メラル、カ豫知スルヲ得スト雖モ余ノ推測
ニ依レハ過般貴國ニ使来セル張蔭桓氏ヲ以

テ全權委員タラシメラルヘキカ

伊藤伯 批准交換ニ於テモ全權委任狀ノ必要
ナルハ豫メ承知セラレタシ、即チ先ツ
全權委任狀ヲ交換スル手續ナリ

李伯 其ハ國際上ノ慣例ナレハ承知セリ獨
リ余ノ知ルノミナラス總理衙門ニ於テモ承
知シ居レハ安意アレ、批准交換ノ時ハ
双方ニテ議定書ヲモ調製シ兩全權之ニ調印
セサルヘカラス然レトモ唯タ批准交換ノコ
トニ止マリ亦他事ニ涉ラサルノ例ト思考ス

MT

MT

伊藤伯 閣下ノ言ハル、如シ

李伯 余カ帰國ノ上ハ先ツ天津ニ止リ批准
ノ濟ミタルトキハ直接ニ閣下マテ電知スヘ
シ而シテ米公使コロネル、デ^ン山氏ヲ介セ
サルヘシ氏ハ至リテ小心ナル人ナレハ少ク
事アルニ於テハ我總理衙門ニ向テ侃々スル
ヲ得ス、余ハ成ルヘキ丈ケ前程ヲ急キ
批准ヲ速ニスル為ニ力ヲ盡サ、ルヘカウス
伊藤伯 承知ス批准電知ノコトハ前回ニモ云
ヘル如ク英ノ常語ヲ以テセラレタシ

MT

李伯 其事ハ貴命ノ如ク取計フヘシ今後兩
國間ニ生スル細大ノ事ハ總テ閣下ト直接往
復センコトヲ望ム何事ニマレ閣下ヨリ余ニ
向ケ通達セラル、ニ於テハ余ハ十分^分微力ヲ
盡シ破綻葛藤ヲ免カル、様協商スル所アラ
ン余ハ帰後早速戦地ニ命令ヲ發シ將來事端
ヲ再發セサル為ニ十分注意セントス余ノ使
命ハ畢竟平和ヲ講スルニ在^在リタレハ平和ノ
為ニハ飽マテ盡カスルヲ辞セス

MT

(此時條約書類ヲ卓上ニ安排ス)

陸奥子 (李経方氏ニ向ヒ) 先ツ英文ヲ先ニシテ

日清^漢西文ヲ後ニスヘキカ

李経方 英文其他ノ書類ハ昨日伊東書記官長等

ト我参贊官等ト會見ノ節充分査閲ヲ經タレハ

直ニ調印ノコトニ移リ差支ナシト思考ス

伊藤伯 書類ハ今再讀スルノ要ナカルヘシ

(李伯之ニ同シ此ニ調印シ了ル和文ハ各々

官爵ヲ記シタルノミナルヲ以テ互ニ面前

ニ於テ署名調印シタルモ^漢清文ハ二通トモ

官爵氏名マテ記入シアリタルニ由リ更ニ

花押^畫シ其上調印シタリ)

李伯 諸般此ノ如ク調印マテモ滞リナク済ミ

タル以上ハ閣下ニ一ノ請フ所アラントス其

ハ他ニ^非ラス余カ前日ノ遭難ノ為^ニ本縣知

事警部長ハ革職トナリタルモ元來彼等ノ過

失ト云フニモ^非ラス且余ノ創傷癒^ハテ今日

アルヲ致シタルハ閣下ノ執奏ニ依リ知事警

部長ヲシテ復ヒ其職ニ就クヲ得セシメラレ

ンコトヲ望ム

伊藤伯 閣下ノ厚意誠ニ敬謝ス孰レ余ヨリ

MT

MT

陛下ニ奏上スヘシ

李伯 縣知事カ直接具事ニ與ラサルハ勿論
 警部長ト雖モ現場ニ在リタルニモ^非ヤサレハ
 余ハ彼等ニ對シテ聊不滿ナレ途上警戒ノ巡
 査モ能ク常ニ注意ヲ急ラサリシコトヲ知ル畢
 竟遭難ノ事余カ一時ノ不幸ノミ彼等カ責シ
 負フテ具職ヲ奪ハレタルハ余ニ於テ頗ル安
 心セサル所ナリ

伊藤伯 實ハ彼等ノ兇官ハ余ノ奏上スル所ニ
 係ル彼等直接具事ニ與ラスト雖モ職務ヲ曠

廢シタルノ責避クヘキニ^非ヤサルヲ以テ懲
 戒處分トシテ其官ヲ免セラレタリ然レトモ
 閣下カ此^斯ノ尊意ハ余ヨリ追テ 聖聽
 ニ達スヘシ

李伯 余若シ員傷致死ニ至ル時ハ彼等亦復
 職ノ機會ナキモ知ルヘカラスト雖モ幸ニ意
 外ニ傷淺ク數日ニシテ平癒シタレハ余一身
 ノ幸ノミナラス 知事警部長等ニ取リテモ幸
 ナリ閣下宜ク彼等ノ為ニ執奏ノ勞ヲ取ラレ
 タシ

MT

MT

伊藤伯 閣下仁慈深謝ニ堪ヘス實ハ當時閣下
遭難ノ急報ニ接シタル時余ハ知事ヲ嚴ク叱
責シ且曰ヘリ余ハ李伯ノ一身ニ微疵ヲ負ス
ヨリモ寧ロ余自ラ狂兒ノ手ニ斃レン方意安
シト(此時李伯ハ非常ニ感動シタルカ如ク默
然伊藤伯ヲ凝視シ忽チニシテ破顔微笑ス)

李伯 閣下ノ高義斯ク^迄トハ思ハサリシ
余真ニ謝スルニ辞ナシ……夫ノ知事警部
長ハ定メテ卑官ヨリ歴陞シテ此地位トナリ
タルナラン然ラハ彼等一生ニ於テ再ニ此地

位ニ昇ルノ時機到リ難カラン閣下十分彼等
ノ為ニ察シ垂レヨ

伊藤伯 閣下ト余ノ一身ハ實ニ兩國間ヲ維テ
ル一縷絲ノ如ク其將ニ絶ヘントスル兩國ノ
脉絡ハ僅カニ此一縷ニ依テ保タレ將來ノ平
和亦此ニ端ヲ成サントスルニ際シ罔ラヌモ
枉豎アリテ此一縷ヲ断タントシタルナレハ
我政府ハ視ルニ重大事ヲ以テシ當職ヲ處分
スル固ヨリ寛假セス

李伯 貴國ニ捕虜トナレル者ノ内莫鎮藩ト

MT

MT

稱スルハ元來在米國我公使館負ニシテ軍人
ニ^非サレハ速ニ釋放歸國セシメラレタシ
李^方經^方 余ハ莫鎮藩ト面識ナレト雖モ彼亦外
交官中ノ一人ニシテ久ク其名ヲ知レハ殊ニ
彼ノ不幸ヲ憐マサルヲ得ス願クハ一日モ速
ニ釋放セラレタシ

陸奥子 然レトモ彼ハ現ニ捕虜トナリ居ルモ
ノナレハ批准交換ノ後^迄ハ獨リ彼ノミヲ
釋放スルヲ得ス

李^方經^方 彼ハ張蔭桓ト其郷土ヲ同クス即チ廣
東人ナリ張氏カ米國ニ駐任セル時莫ハ彼ノ
通譯官タリシ余カ今回貴國ニ來ルニ際シ莫
ノ救護ニ付張ヨリモ特ニ倚賴セラレタリ莫
ハ任期満チ帰國スルノ次神戸ニ立寄りタル
為メ彼ノ如キ奇禍ヲ買ヒタルモノニシテ他
因アルニ^非ラス

陸奥子 莫カ公使館負カ否ニ付テハ當時多少
ノ議論モアリ又種々紛糾セル事情モアリシ
カ日本軍艦破壊ヲ企圖シタルホーウエート
關係アリト云フヨリ遂ニ莫ハ捕虜トシテ待

MT

MT

遇セラル、コト、ナリ現ニ彼ハ伊豫松山ニ
在リト雖モ十分保護シ居レハ深ク配慮セラ
ル、ヲ要セス

伊藤伯 釋放ノ機會到ラハ早速貴意ノ如ク取
計フヘシ

陸奥子 此地ヨリ本沽マテノ航行ハ何日ヲ費
サルヘカラサルカ

李経方 凡ソ七百哩ナレハ三日間ヲ要ス余等
ノ乗船ハ速力十二節ニ過キサレハナリ

李伯 (陸奥子ニ向ヒ) 負傷以来屢ニ訪問ヲ忝

フシ厚意深謝ス閣下頃日来病ニ卧サル、シ
聞キ余ハ若禮ヲ兼ネ趨向スヘキノ處種々ノ
用務ニ紛レ意外疎濶ニ過キタリ或重ニモ諒
恕アレ

李経方 條約調印済ノ上ハ告別旁々西閣下ノ
旅館ヲ訪フヘキ筈ナレトモ解纜ノ期切迫シ
居レハ具禮ヲ畧ス外容サレタシ

伊藤伯 (羅豊禄ニ向ヒ) 議定書モ亦均シク批准
ヲ要スヘキモノナレハ足下ヨリ李伯ニ注意
セラレタシ

MT

MT

(羅之ヲ李伯ニ通シ李伯首肯ス……夫レヨリ伊藤伯シヤンパン杯ヲ舉ケテ李伯等ノ健康ヲ祝シ且航海ノ安全ヲ祈ル旨ヲ述ヘラレ李伯等恭ク之ニ答禮ス)

李伯 尚ホ重テ一言セン將來何等ノ事端ヲ生スルモ直接余ニ通報セラレタシ……其急ナルモノハ電音ヲ以テシ其急ナラサルモノハ郵書ヲ以テセラレタシ

伊藤伯 貴意ヲ領ス……想起スレハ十年前余カ大使トシテ貴國ニ赴キ其北京ニ入りタ

ルハ三月二十一日ニシテ天津ヲ發シタルハ四月十九日其間三十日トス今回閣下カ此地ニ到着セラレタルハ三月十九日ニシテ本日出發セラル、トセハ其間同ノ三十日トス會見ノ回数天津ニ於テハ六回此地ニ於テハ七回ニシテ實ニ一回ノ差、調印ノ日天津ハ四月十八日此地ハ今十七日ニシテ亦僅ニ一日ノ差アルノミ而シテ談判終局ノ日ハ前後共ニ四月十五日トス亦奇ト謂フヘシ

李伯 實ニ奇ナリ……批准交換後ハ直ニ

MT

MT

820242

臺灣ニ全權委員ヲ派遣セラレンガ成ルヘク
温和^温脱ノ人ヲ撰擇セラレンコトヲ希望ス
、通商航海條約締結ノ為メノ全權委員
ハ如何セラル、カ

伊藤伯 通商航海條約締結ノコトハ批准交換
後駐劄セシムヘキ特命全權公使其人ヲシテ
商議セシメンコトヲ欲ス

(談判此ニ終結ヲ告ノ時^{あつた}午^{午後}一時十分)

MT

2-0 0 6 7

0:00